EPSON

Endeavor

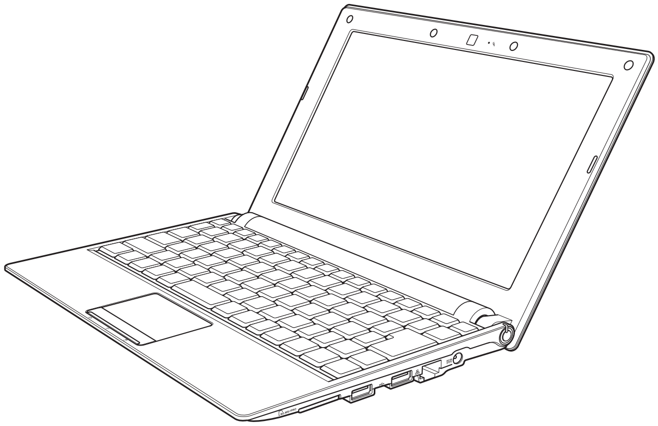
Na03mini

ユーザーズマニュアル

Windows 7

本機でできること

本機は10.1型の液晶ディスプレイを搭載したノート型コンピューターです。



本機では、主に次のようなことができます。

ネットワークに接続する

p.75

無線LANを使う

p.82

インターネットやメールを利用する

p.95

システム診断ツールを使う

p.162

目　次

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

困ったときは

付録

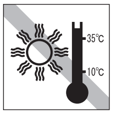
ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

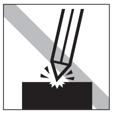
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。
特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプターやバッテリーパックなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃〜35℃です。



LCD画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



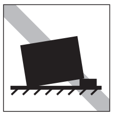
本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



本機を長期間使わないときは、バッテリーパックを本機に装着したままにしないでください。
液漏れを起こすことがあります。



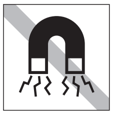
本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。



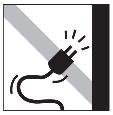
不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



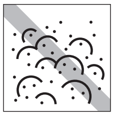
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



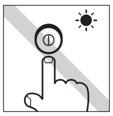
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



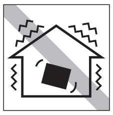
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリーパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えることがあります。



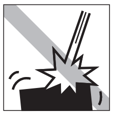
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。



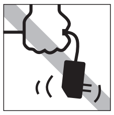
アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ほかの機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



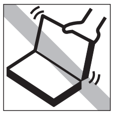
本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。



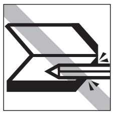
ACアダプターはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプターの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。



本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。
また、開閉可能な最大角度を超えてLCDユニットを開かないでください。
ヒンジ部分が破損します。



キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

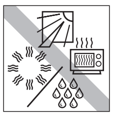
▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

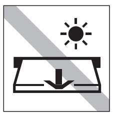
＜記録メディアの種類＞

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリーカード

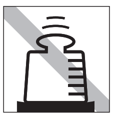
記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



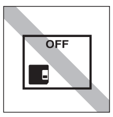
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



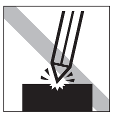
アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



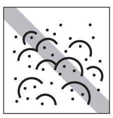
上に物を載せないでください。



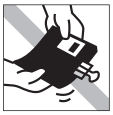
使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



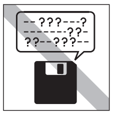
キズを付けないでください。

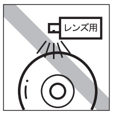


ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。


クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。


磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。
FD MC


何度も読み書きしたFDは使わないでください。
摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。
FD



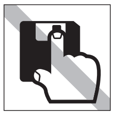
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。
CD

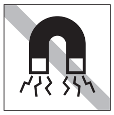


光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。
CD

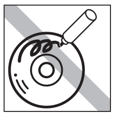


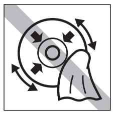
シールを貼らないでください。
CD


アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。
FD MC


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。
FD MC


信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。
CD


信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。
CD


レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。
CD


温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。
CD

無線LAN使用時における
セキュリティーに関する注意

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が施されていない場合があります。
したがって、お客様がセキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティーに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティー対策を施さず、または、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティーの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティーの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。
当社では、お客様がセキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限	**制限事項です。** 機能または操作上の制限事項を記載しています。
参考	**参考事項です。** 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	**本書とは別のマニュアルを示します。** 例)『サポート・サービスのご案内』: 本機に添付の『サポート・サービスのご案内』を示します。
☞	**参照先を示します。**
1 2	**操作手順です。** ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
Ctrl	**□で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。** ↵はEnterキーを表します。また、Nは N み のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
Ctrl+Z	**＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。** この例では、Ctrlを押したままZを押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリーカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows 7	Microsoft® Windows® 7 Starter

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1GB（ギガバイト）＝1000MBとして記載しています。

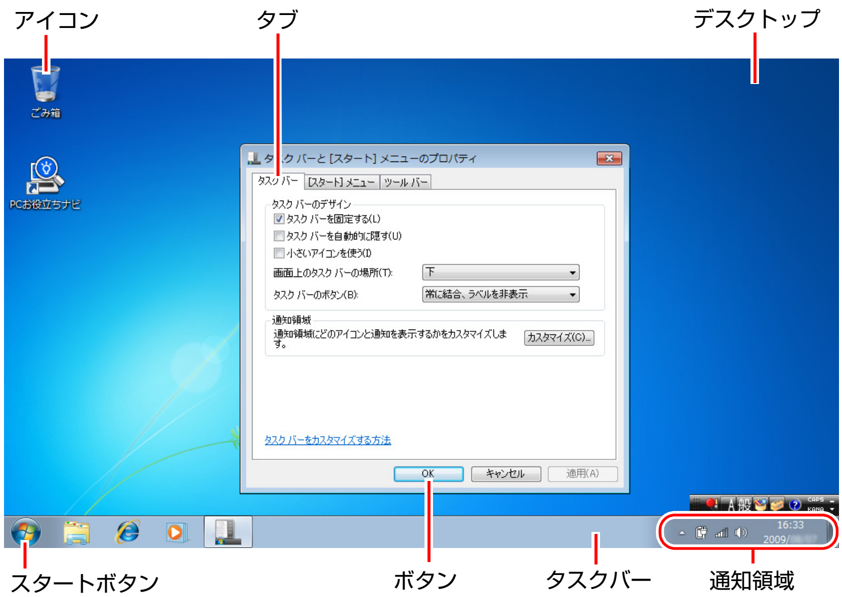
メモリー容量の記述

本書では、メモリー容量を1GB（ギガバイト）＝1024MBとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

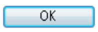
デスクトップ画面

本書では、Windowsの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



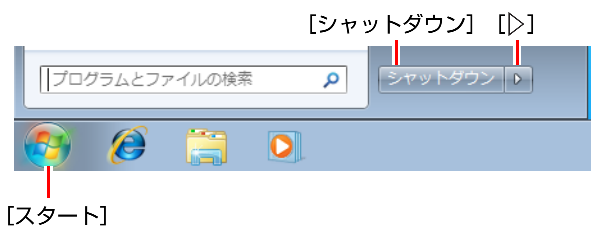
ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）：［OK］

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

本書では、Windowsの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

● 記載例

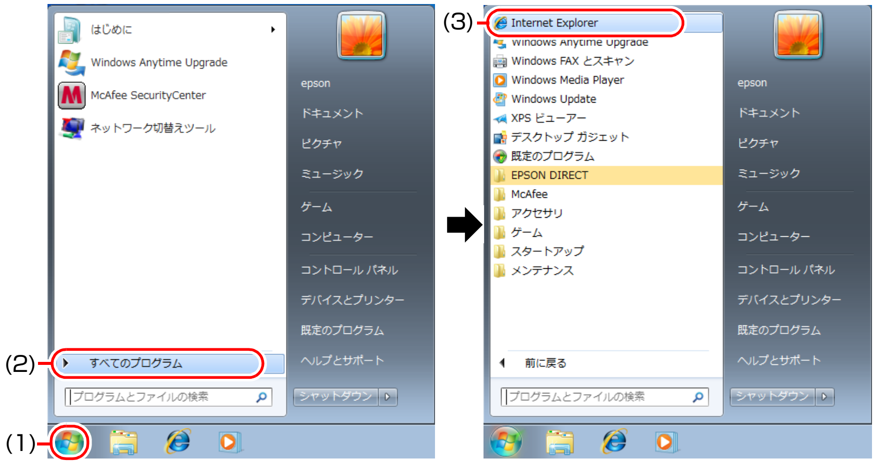
[スタート] –「すべてのプログラム」–「Internet Explorer」をクリックします。

● 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

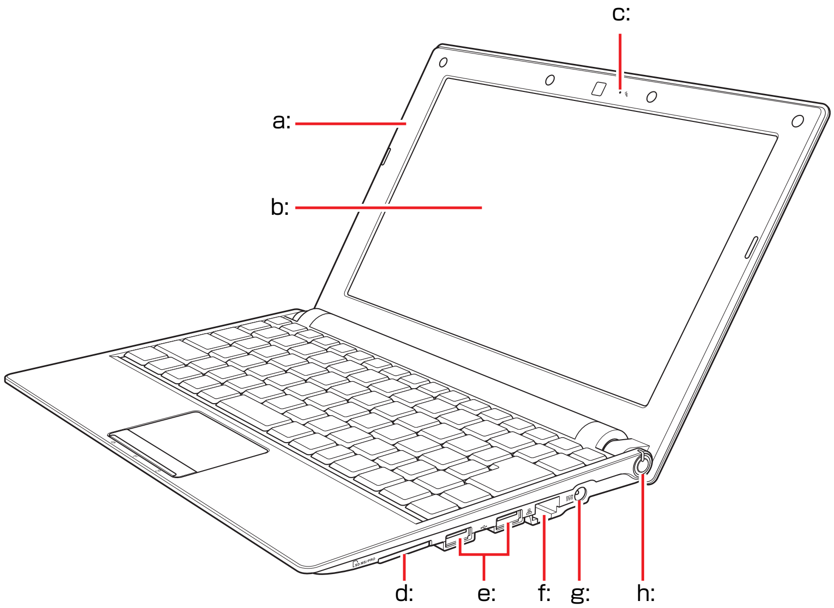
(3) 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

各部の名称と働き

▶正面・右側面



a: LCDユニット
LCD画面を含めたカバー部分です。

b: LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: 内蔵マイク
音声をコンピューターに取り込みます。

d: メモリーカードスロット SD.MS/PRO
メモリーカードの読み込みや書き込みなどを行います。

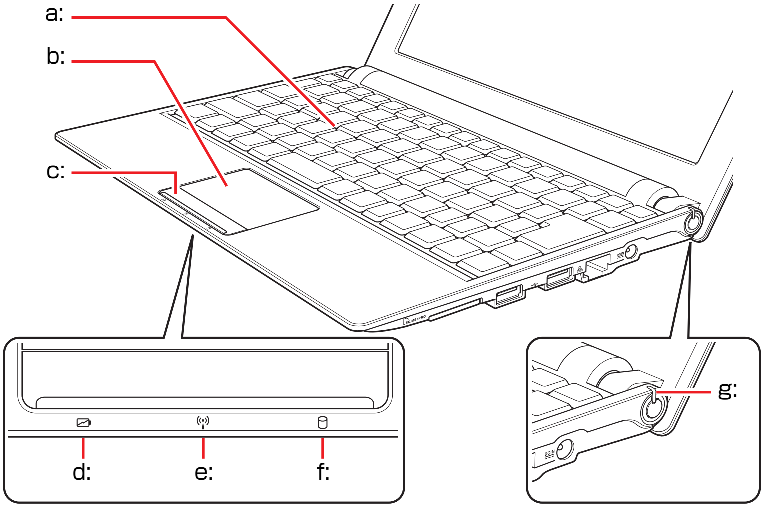
e: USBコネクター
USB対応機器を接続します。

f: LANコネクター
ネットワークと接続します。

g: ACアダプターコネクター DCIN
付属のACアダプターを接続します。

h: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スリープや休止状態からの復帰にも使用します。

キーボード／タッチパッド／ステータス表示ランプ



a: キーボード
文字の入力やソフトウェアの操作などを行います。

b: タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインターを操作します。

c: クリックボタン
ボタンの左端と右端がマウスの左右ボタンに相当します。

d: バッテリー充電ランプ
バッテリーの充電状態を示します。
オレンジ色点灯：充電中
消　灯：満充電

e: 無線LAN状態ランプ
無線LANのON/OFF状態を示します。

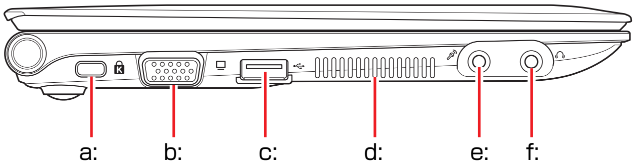
f: HDDアクセスランプ
HDDアクセス中に点灯・点滅します。

g: 電源ランプ
電源状態を示します。
緑点灯：通常
緑点滅：スリープ
消　灯：電源切断時または休止状態

制限

アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶左側面



a: セキュリティーロックスロット
市販の盗難抑止用ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。

b: VGAコネクター
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

c: USBコネクター
USB対応機器を接続します。

d: 通風孔
コンピューター内部で発生する熱を排出します。

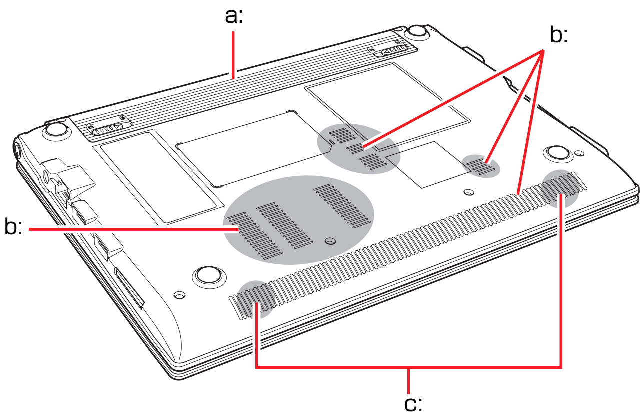
e: マイク入力コネクター
マイクを接続します。

f: ヘッドホン出力コネクター
スピーカーやヘッドホンなどを接続します。

制限

セキュリティーロックスロットと VGA コネクターの併用はできません。

▶底面



a: バッテリーパック
着脱可能な充電式の電池です。

b: 通風孔
コンピューター内部に外気を取り入れます。

c: 内蔵ステレオスピーカー
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
● Windows 7 本機のオペレーティングシステム（OS）です。 チップセットやネットワーク、メモリーカードのドライバーも含まれています。	Windows 7リカバリー DVD
● Windows Live Suite 「Windows Liveメール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。	
● ビデオドライバー Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバーです。	ドライバー CD
● サウンドドライバー 音を鳴らしたり、録音するためのドライバーです。	
● タッチパッドドライバー タッチパッドを使用するためのドライバーです。	
● 無線LANドライバー 無線LANを使用するためのドライバーです。	
● インスタントキードライバー Fn と組み合わせて使用する機能キーを使用するためのドライバーです。	
● インスタントキーユーティリティー インスタントキーを使用するためのユーティリティーです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● PCお役立ちナビ コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。 システム診断ツールも含まれています。	
● マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティーソフトウェアです。 危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツール「マカフィー・サイトアドバイザプラス」も含まれています。	

インストールが必要なソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。購入後のWindowsセットアップ時に表示される「初期設定ツール」を利用してインストールしてください。
Windowsの再インストール後は、ドライバーCDの「本体ドライバー」に含まれてインストールされます。

インストールが必要なソフトウェア	インストール用データの収録場所
● ネットワーク切替えツール V3 ネットワークの設定を切り替えるためのユーティリティーです。	ドライバー CD

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。購入後のWindowsセットアップ時に表示される「初期設定ツール」を利用してインストールできます。「初期設定ツール」でインストールしない場合やWindowsの再インストール後は、外付け光ディスクドライブを接続して、CDからインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
● i−フィルター 5　30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。	ドライバー CD
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、インストールの必要はありません。外付け光ディスクドライブを接続して、CDから起動して実行します。

p.162 「システム診断ツールを使う」

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピューターの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	ドライバー CD

第1章
コンピューターの基本操作

キーボードやタッチパッド、メモリーカードの使用方法など、本機の基本的な操作方法について説明します。

電源の入れ方・切り方

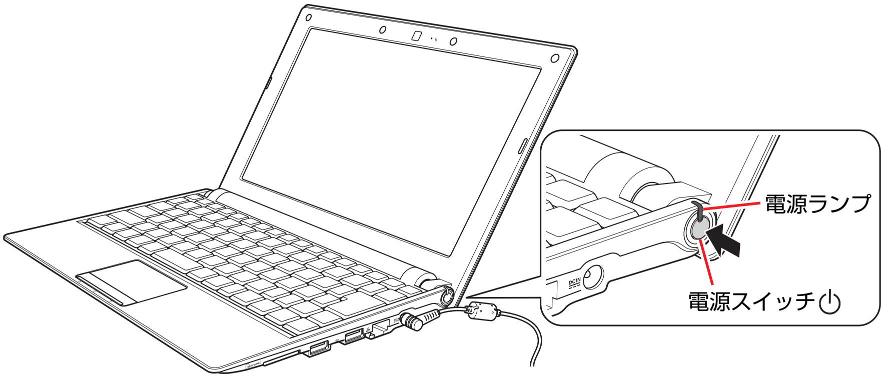
ここでは、電源の入れ方や切り方などについて説明します。

▶電源を入れる

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1 電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプが点灯します。
点灯しない場合は、ACアダプターやバッテリーパックが正しく接続されているか確認してください。



2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

電源を入れる際の注意

本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる**
  Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  ☞ p.103 「省電力機能」
- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器の電源をいつ入れるか確認する**
  本機よりも先に電源を入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。

制限

- USBフラッシュメモリーやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を取り外した状態で行い、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティー」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.120 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

制限

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリーパックが装着されていたり電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリーパックを取り外してください。

1 **[スタート] －「シャットダウン」をクリックします。**

Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

2 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピューターにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、[いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

▶スリープにする

本機をスリープにして終了する方法とスリープから復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープにして終了する方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］ －［▷］ －「スリープ」をクリックします。

本機が「スリープ」になります。画面表示が消え、電源ランプが点滅します。

参考

ほかの方法でスリープにする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- 電源スイッチ（⏻）を押す
- Fn + F1（☾ᶻᶻ）を押す
- LCDユニットを閉じる

復帰方法

本機をスリープから復帰させる方法は、次のとおりです。

制限

復帰の際、周辺機器はスリープに入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ（⏻）を押します。

本機が通常状態に復帰します。
キーボードを操作しても復帰できます。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］－［▷］－「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

Windows使用時の確認事項

Windowsご使用の前に次の事項を確認してください。

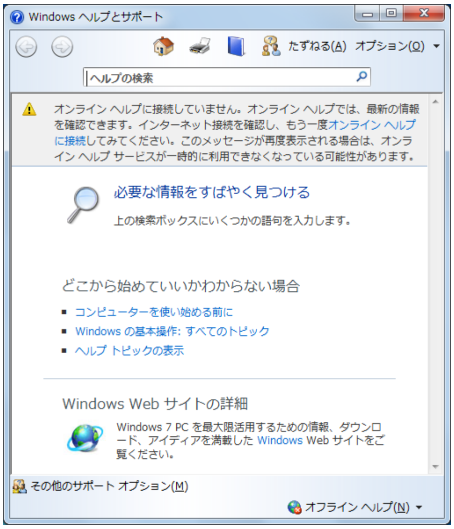
▶Windows 7の使用方法

Windows 7の使用方法は、次をご覧ください。

●ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

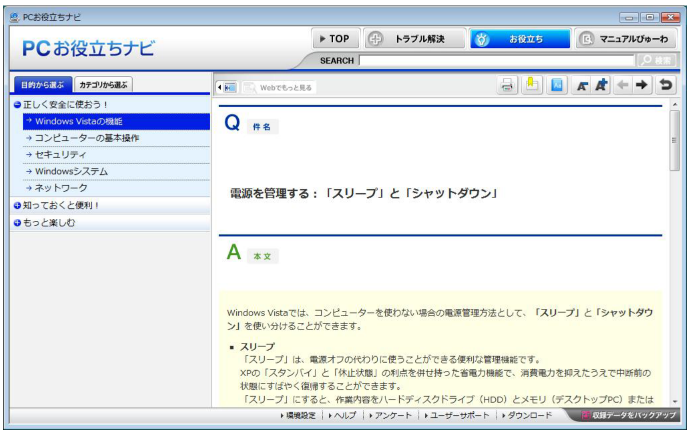
[スタート]－「ヘルプとサポート」



＜イメージ＞

●PCお役立ちナビ

p.30 「PCお役立ちナビを使う」



＜イメージ＞

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が大きすぎたり小さすぎたりする場合には、音量を調節します。
次のキーを操作してください。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F11　▼	音量が小さくなる。
Fn ＋ F12　▲	音量が大きくなる。

Windowsの修復

本機のHDDにある消去禁止領域には「Windows回復環境」が設定されています。
これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。
Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。
p.159 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

セキュリティー対策を行う

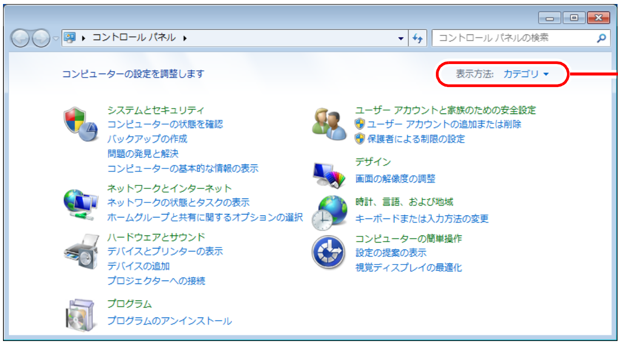
本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティー機能が搭載されています。
インターネットに接続する場合は、セキュリティー対策を行ってください。
p.98 「インターネットを使用する際のセキュリティー対策」

画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すか、キーボードを操作すると元に戻ります。
p.106 「省電力状態からの復帰方法」

▶コントロールパネルの表示

本書では、コントロールパネルの表示が「カテゴリ」であることを前提に記載しています。

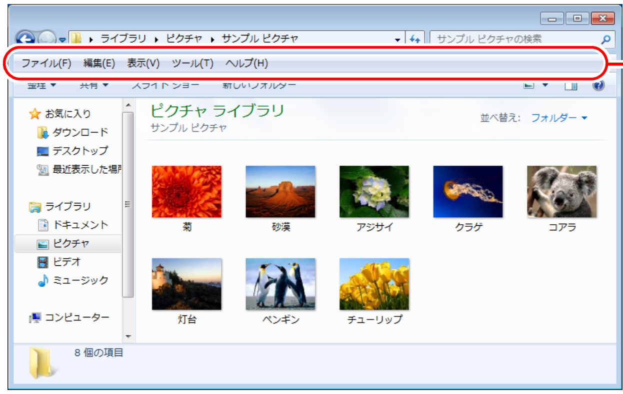


表示の切り替え

＜表示方法：カテゴリ＞

▶フォルダーメニューの表示

Windows 7では、「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューが標準では表示されません。
フォルダーメニューを表示したい場合は、Alt を押します。もう一度 Alt を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



フォルダーメニュー

常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

1 **[スタート] －「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「フォルダーオプション」－「表示」タブ－「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」－「ユーザーアカウント」－「別のアカウントの管理」－「新しいアカウントの作成」

ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2種類あります。

● 管理者

すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

購入時やリカバリー時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

● 標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようとすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



<イメージ>

表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウントの種類(管理者または標準ユーザー)により異なります。本書の手順は、管理者でログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Live Suite

本機には、Windows Liveの以下のソフトウェアがインストールされています。

- Windows Live メール
- Windows Live Messenger
- Windows Live フォトギャラリー
- Windows Live Writer
- Windows Live ムービーメーカー
- Microsoft Silverlight

起動方法

Windows Live Suiteの各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Live」

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- 「PCお役立ちナビ」－画面下［ユーザーサポート］－「FAQ 番号：29148」
- Windows Liveのヘルプページ
  http://help.live.com

Windows Live IDを作成する

Windows Liveを使用するには、Windows Live IDが必要になります。Windows Live IDは無償で作成することができます。インターネットへ接続後、各ソフトウェアの「サインイン」画面で作成してください。
次のいずれかのサービスをご利用の場合は、そのアカウントをWindows Live IDとして使うことができます。

- MSN Hotmail
- MSN Messenger
- Microsoft Passport

サポートについて

Windows Live Suiteのサポートは、マイクロソフト社で行っています。無償サポートは、電子メールのみです。
サポートの詳細は、次のWebページをご覧ください。
http://support.live.com

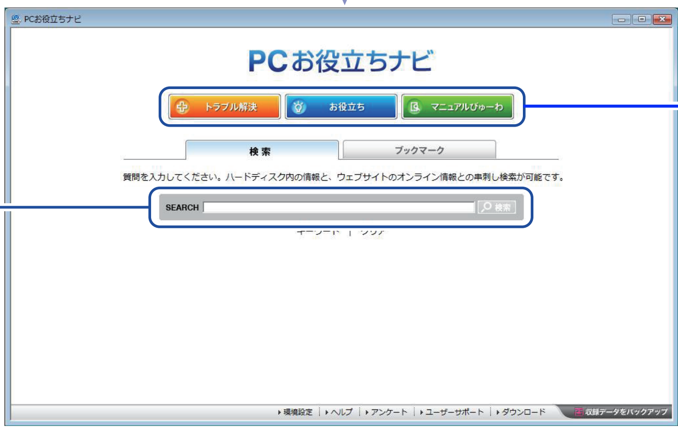
PCお役立ちナビを使う

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。



<PC お役立ちナビアイコン>

ダブルクリック

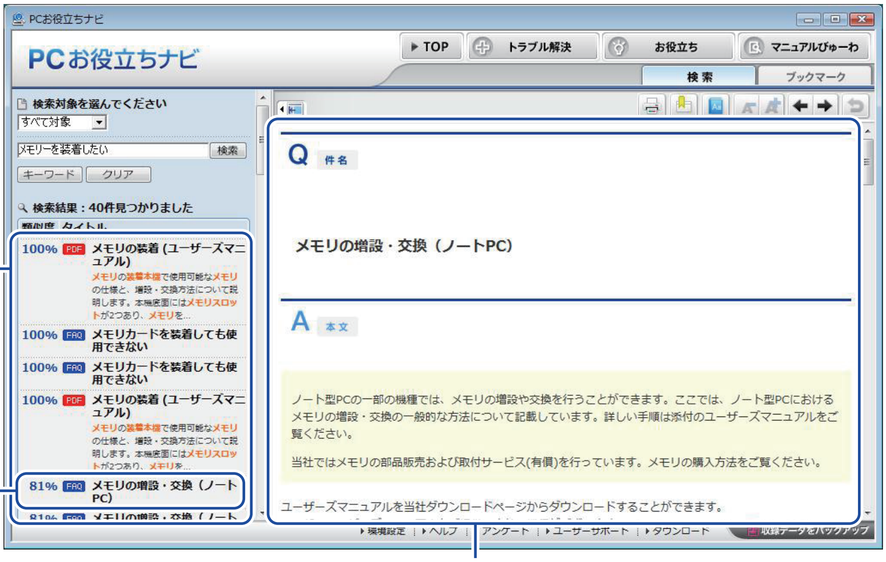


① 検索をする

TOPページから検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポートページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル（PDF）・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



検索結果

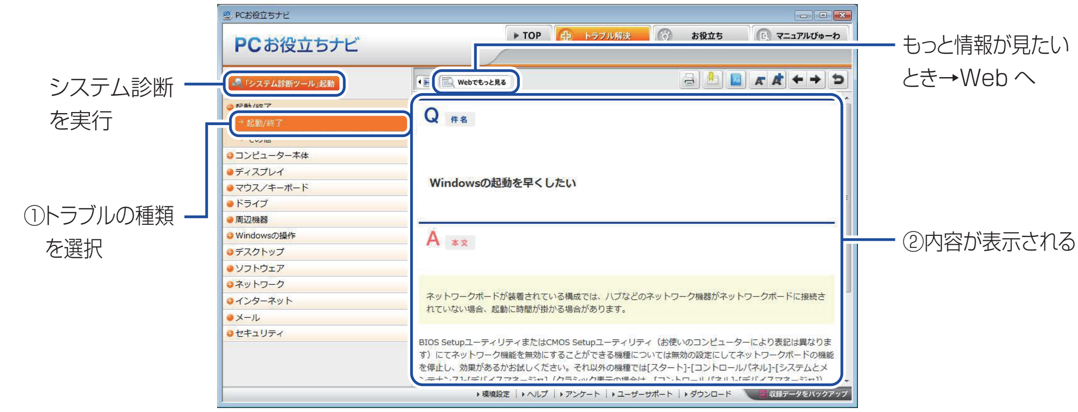
①見たい項目を選択

②内容が表示される

<イメージ>

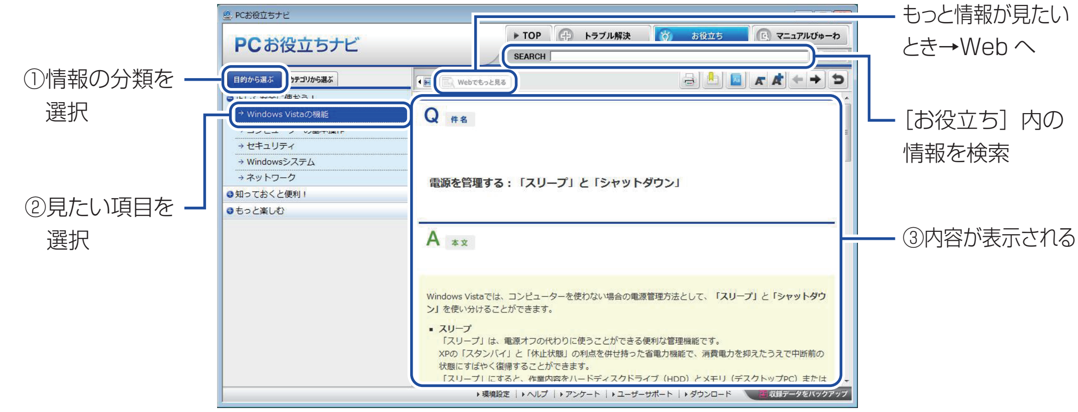
② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決　トラブルを解決するのに役立つ情報を収録しています。



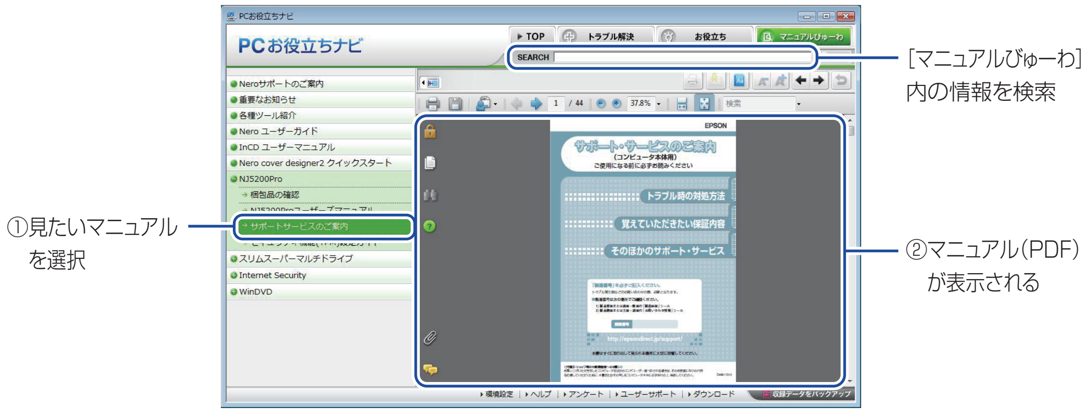
<イメージ>

お役立ち　コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。



<イメージ>

マニュアルびゅーわ　本機に添付されているマニュアルの PDF データを収録しています。



<イメージ>

ACアダプター/バッテリーパックを使う

本機は、ACアダプターまたはバッテリーパックを取り付けて使用します。
バッテリーパック（以降、バッテリー）は、着脱可能な充電式のリチウムイオン（Li-ion）電池です。

ACアダプターとバッテリーの型番

本機のACアダプターとバッテリーの型番は、次のとおりです。

- ACアダプター　：ADP-40PH
- 標準バッテリー　：BT3102-BW
- 長時間バッテリー：BT3204-BW（オプション）

（今後、新しいACアダプターやバッテリーを追加する場合があります。）

本機のACアダプターまたはバッテリーは、当社ホームページの「オプション」からご購入いただけます。
当社ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

使用時の注意

警告

- バッテリーを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリーなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリーの金属端子をショートさせたり、水、コーヒー、ジュースなどの液体でぬらさないでください。感電・火災・火傷の原因となります。
- 付属のACアダプターやバッテリーを、分解・改造しないでください。
  また、本機には、指定以外のACアダプターやバッテリーを使用しないでください。感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプターやバッテリー、または分解・改造したACアダプターやバッテリー（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く所にバッテリーを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリーには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリー駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリーと交換してください。
  駆動時間が短くなったバッテリーは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリーをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。

注意

- 付属のACアダプターやバッテリーは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプターを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプターやバッテリーを使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
  万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリーが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリーを取り外してください。
  そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリーの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ACアダプターの温度の高い部分に、長時間触れないでください。低温火傷の原因となります。

ACアダプターやバッテリーは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプターを使用するとき

- 停電などでACアダプターからの電源供給が途切れた場合に作業中のデータが消えるのを防ぐため、ACアダプターを接続して使用するときも、バッテリーを装着することをおすすめします。
- ACアダプターを長時間接続して使用すると、ACアダプター本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプターは頻繁に抜き差ししないでください。

● バッテリーを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。省電力状態でも電力が消費されています。
  p.103 「省電力機能」
- バッテリーだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.105 「時間経過で移行させない」

● バッテリーを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリーが完全放電している可能性があります。バッテリーだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリーを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
  p.39 「バッテリー保管上の注意」

参考

低温環境でのバッテリー性能
低温の環境では、バッテリーの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリーの使用可能時間

バッテリーだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリーの種類	使用可能時間 *（満充電の場合）
標準バッテリー	連続約4.1時間

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

本機をバッテリーだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。
p.103 「省電力機能」

バッテリーの充電

バッテリーの充電は、ACアダプターが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に行われます。

制限

バッテリーの充電は、必ず動作環境（10 ～ 35 ℃）で行ってください。動作環境（10 ～ 35 ℃）以外では、正常に充電されません。

バッテリー充電ランプの表示

ACアダプター接続時のバッテリー充電ランプ（ ）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯
残量少	点滅（オレンジ色）

充電時間

低バッテリー状態からバッテリーの充電完了までの時間は、次のとおりです。

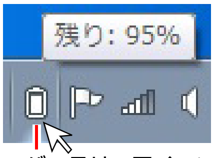
バッテリーの種類	バッテリーの充電時間*
標準バッテリー	約3.3時間

*電源が入っている状態では、コンピューターの使用状況により差があります。

▶バッテリー残量の確認

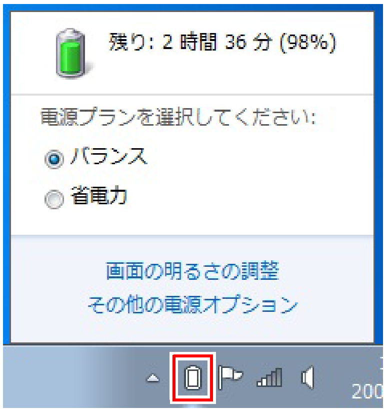
本機をバッテリーだけで使用している場合、次の方法でバッテリー残量を確認することができます。

- 通知領域の「バッテリー」アイコンの上にマウスポインターをあわせる



バッテリーアイコン

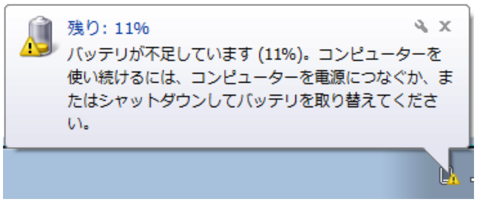
- 通知領域の「バッテリー」アイコンをクリックする



バッテリー残量が少なくなったら

バッテリー残量低下の通知

バッテリー残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。



バッテリー残量がさらに低下すると、本機は休止状態に移行します。

対処方法

バッテリー残量低下が通知されたら、直ちに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

- ACアダプターを接続する
  電源を入れたままACアダプターを接続します。

- 電源を切る
  作業中のデータをHDDなどに保存して､実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  バッテリーを交換するときも、必ず電源を切ってから行ってください。

制限

ACアダプターを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピューターがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリーの容量がすぐに低下するときは

バッテリーは、消耗品です。満充電にしても、バッテリー容量がすぐに低下する場合は、バッテリーの寿命が考えられます。また、バッテリーの駆動時間が極端に短くなった場合は、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリーをそのまま使用し続けると、発熱、発火、破裂の原因となります。本機専用の新しいバッテリーに交換してください。

バッテリーの交換

複数のバッテリーを交互に使用する場合や、バッテリーが寿命に達した場合は、バッテリーを交換します。
交換用のバッテリーについては、当社ホームページの「オプション」をご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
　http://shop.epson.jp/

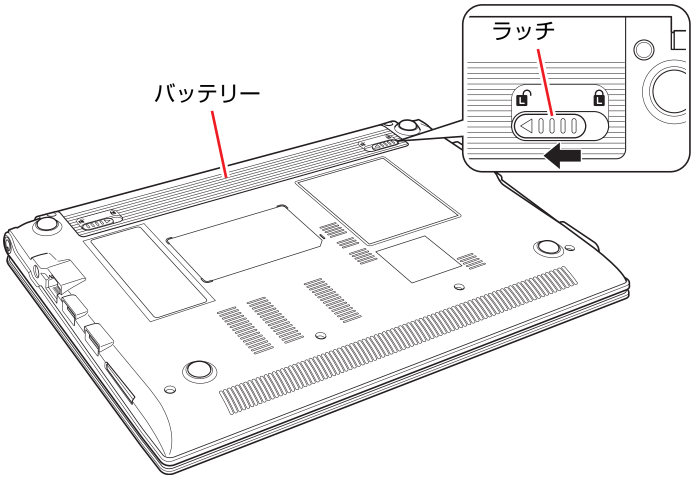
バッテリーの交換方法

標準バッテリーの交換方法は次のとおりです。

1 **本機の電源を切ります。ACアダプターが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

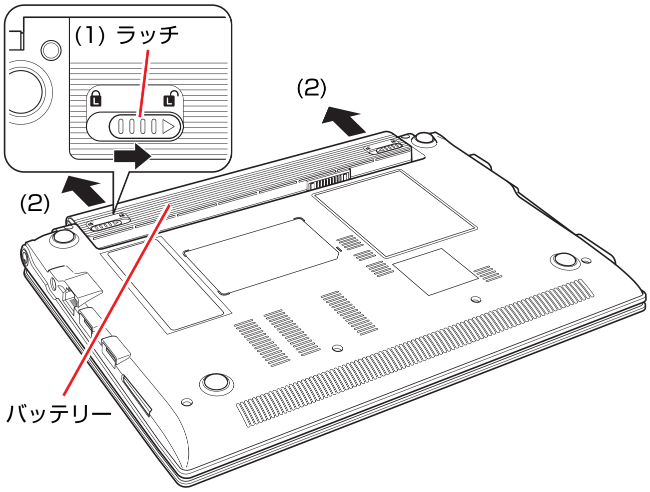
3 **バッテリー右側のラッチをロック解除位置（　）までスライドさせます。**



4 バッテリーを取り外します。

(1) バッテリー左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置で固定します。

(2) バッテリーを矢印の方向に押し出して取り外します。

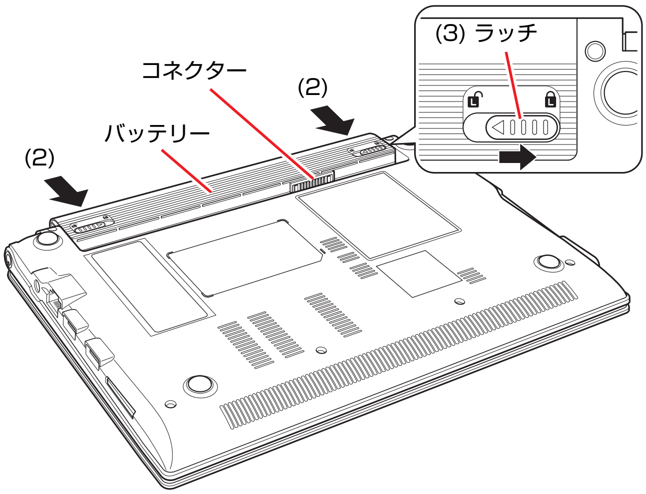


5 新しいバッテリーを本機に取り付けます。

(1) 下図のとおりバッテリーを本機にあわせます。

(2) バッテリーを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(3) バッテリー右側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。



バッテリーの寿命を延ばすには

バッテリーは消耗品です。バッテリーの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。

バッテリーの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリーの劣化が早まります。本機やバッテリーを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時ACアダプターを接続していると、バッテリーの劣化が早まります。1ヶ月に1回程度は本機からACアダプターを外して、バッテリーの残量が10%程度になるまで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリーを取り外して保管してください。

  p.39「バッテリー保管上の注意」

バッテリー保管上の注意

警告

小さなお子様の手の届く所にバッテリーを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリーを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピューター本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリー残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリーは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリーの残量がなくなり過放電状態になると、コンピューターに装着しても充電できなくなることがあります。

  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリー残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

▶使用済みバッテリーの取り扱い

Li-ion 使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリーは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリーリサイクル時の注意

使用済みのバッテリーは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

バッテリーは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインターなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

▶タッチパッドの操作

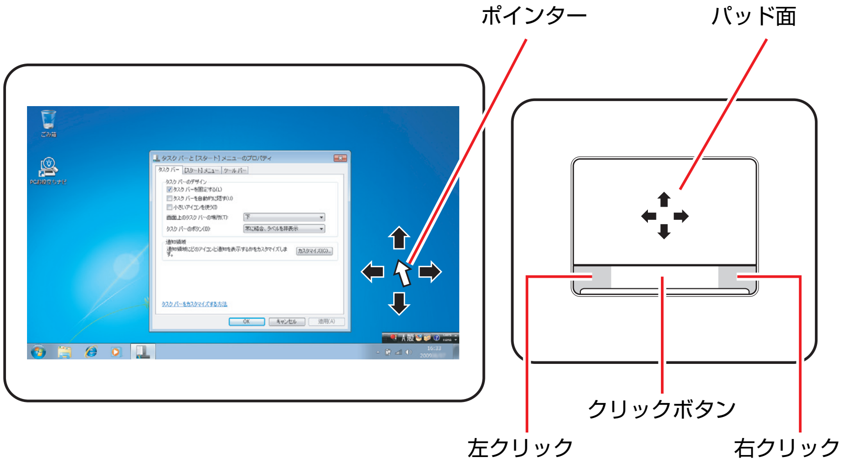
タッチパッド使用時の注意

タッチパッドは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

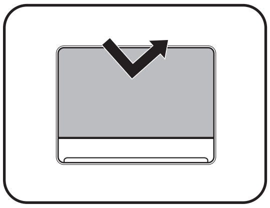
- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインターの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインターが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインターの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインターが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

ポインターの移動

タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。
人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインターが移動します。

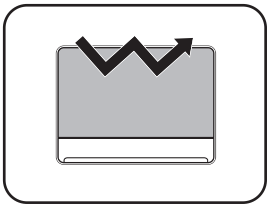


クリック



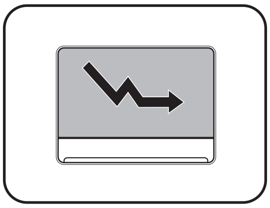
ポインターを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
クリックボタンの左端部分を「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック



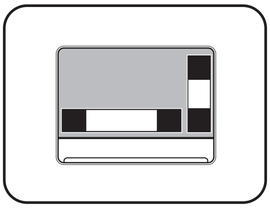
ポインターを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
クリックボタンの左端部分を「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ



ポインターを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
クリックボタンの左端部分を押したままの状態でポインターを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール



上下のスクロールは、パッド右端の上角または下角に指で触れます。左右のスクロール*は、パッド下部の左角または右角より少し中央よりに指で触れます。
スクロールする方向のパッド面に触れるだけで、指を動かす必要はありません。
*左右のスクロールを有効にするには、設定が必要です。
p.43「タッチパッドの設定変更」

▶タッチパッド機能をOFFにする

本機では、タッチパッドの機能をOFFにすることができます。
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインターが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的にOFFにすると便利です。
タッチパッド機能のON/OFFの切り替えは、次のキー操作で行います。

Fn ＋ F9（/×）

▶タッチパッドの設定変更

タッチパッドの設定には、感度の変更や機能追加（左右のスクロール）、ポインターの動作変更などがあります。
タッチパッドの設定変更は、「マウスのプロパティ」画面で行います。画面の表示方法は次のとおりです。

通知領域の［△］－「Finger-sensing Pad」アイコンをダブルクリック



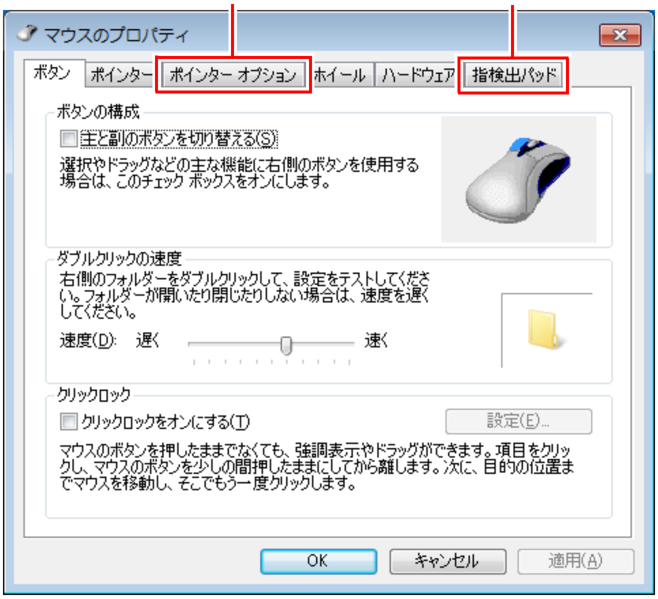
Finger-sensing Padアイコン

＜イメージ＞

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

ポインターの動作を変更

感度やスクロールなど、タッチパッドの設定を変更



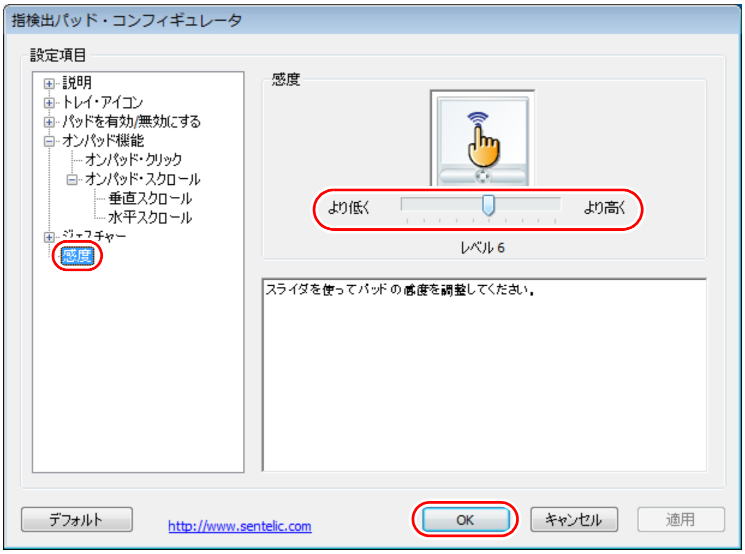
感度を変更する

タッチパッドの感度は、次の手順で変更してください。

1 「マウスのプロパティ」画面の「指検出パッド」タブをクリックし、[設定する]をクリックします。

2 「指検出パッド・コンフィギュレータ」画面の「設定項目」で「感度」をクリックします。

3 感度のレベルを変更して、[OK]をクリックします。



左右のスクロールを有効にする

左右のスクロールを有効にしたい場合は、次の設定を行ってください。

1 「マウスのプロパティ」画面の「指検出パッド」タブをクリックし、[設定する]をクリックします。

2 「指検出パッド・コンフィギュレータ」画面の「設定項目」で「オンパッド機能」－「オンパッド・スクロール」－「水平スクロール」をクリックします。

3 「水平スクロール機能を有効にする」にチェックを付けて、[OK]をクリックします。

▶USBマウス（オプション）の接続

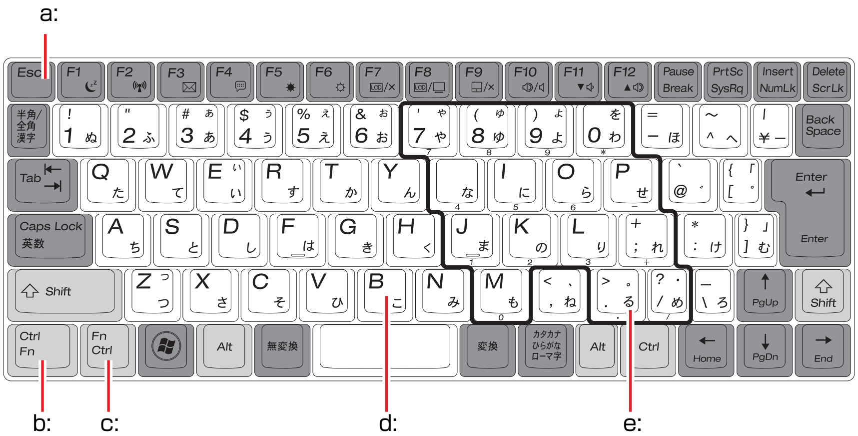
本機右側面または左側面のUSBコネクター（USBマーク）に、USBマウス（オプション）を接続して使うことができます。USBマウスの使用方法は、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機には、日本語対応86キーボードが搭載されています。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



a: **機能キー**

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **制御キー**

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

c: **Fnキー**

[Fn] は制御キーの1つで、キートップ（キーの上面）に青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.48「Fnキーと組み合わせて使うキー」

d: **文字キー**

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**

文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。[Fn] ＋ [NumLk] を押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

参考

[Ctrl Fn]、[Fn Ctrl] の初期状態

キーボード左下側の2つの制御キーは、購入時、キー上部に印字されている文字（[Ctrl]、[Fn]）に設定されています。
この2つのキーは、機能を入れ替えることができます。

p.49「入力キーの機能変更」

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

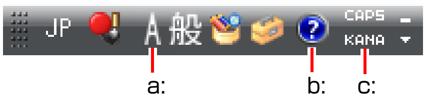
［半角/全角］を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

c: かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
ボタンが押されている状態　：かな入力

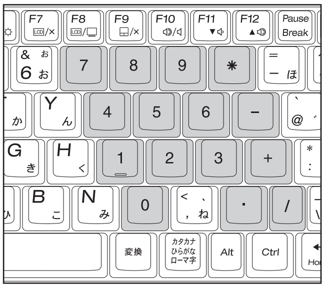
MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

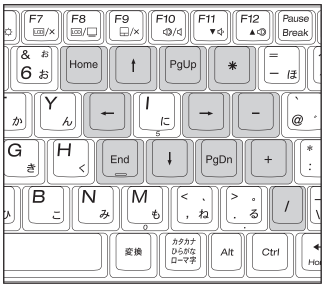
数値キー入力モード

Fn ＋ NumLk を押すと、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード



Shift を押したとき



アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	省電力状態に移行します。購入時の設定では、スリープに移行します。 p.103 「省電力機能」
Fn ＋ F2	無線LAN機能のON/OFFを切り替えます。 p.85 「無線LAN機能のON/OFF方法」
Fn ＋ F3	Windows Liveメールを起動します。 Windows Liveメールの起動には、設定が必要です。 p.50 「Windows Liveメールを起動するには」 Officeをインストールしている場合は、Outlookを起動します。
Fn ＋ F4	PCお役立ちナビを起動します。 p.30 「PCお役立ちナビを使う」
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.61 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.61 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F7 LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.62 「バックライトの消灯」
Fn ＋ F8 LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、画面表示を切り替えます。 p.65 「画面表示の種類」
Fn ＋ F9 /×	タッチパッドのON/OFFを切り替えます。 p.42 「タッチパッド機能をOFFにする」
Fn ＋ F10	スピーカーのミュート（消音）の入/切を切り替えます。 p.70 「音量の調節」
Fn ＋ F11 ▼	スピーカーの音量を小さくします。 p.70 「音量の調節」
Fn ＋ F12 ▲	スピーカーの音量を大きくします。 p.70 「音量の調節」
Fn ＋ NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.47 「数値キー入力モード」
Fn ＋ ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。＊
Fn ＋ End	行の最後に移動します。＊
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。＊
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。＊

＊ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能変更

入力キーの機能を入れ替えたり、変更したりすることができます。

- キーボード左下にある Ctrl とその隣の Fn の機能を入れ替える。
- キーボード右下にある Alt の機能をアプリケーションキーに変更する。



入力キーの機能を変更するには、「BIOS Setupユーティリティー」の「Advanced」メニュー画面にある次の設定を「Enabled」（有効）に変更してください。

＜CtrlとFnの機能入れ替え＞
「Exchange L-Ctrl & Fn key」

「Enabled」に設定すると、キー下部に印字されている文字（ Fn 、 Ctrl ）に設定されます。

＜右下にあるAltの機能変更＞
「Exchange R-Alt & Win App key」

購入時は、どちらも「Disabled」に設定されています。

p.111 「BIOS Setupユーティリティーの操作」
p.123 「Advancedメニュー画面」

▶Windows Liveメールを起動するには

Fn ＋ F3 （✉） でWindows Liveメールを起動するには、設定が必要です。
Windowsを再インストールした場合も、同様に設定してください。
設定手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「既定のプログラム」－「既定のプログラムの設定」をクリックします。

2 「既定のプログラムを設定します」と記載された画面で、プログラムの一覧から「Windows Liveメール」をクリックし、「すべての項目に対し、既定のプログラムとして設定する」をクリックして、［OK］をクリックします。

HDDを使う

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。
本機には、シリアルATA 300MB/s対応のHDDが搭載されています。

制限

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピューターがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、USB記憶装置などにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップ方法は、p.166「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域

購入時のHDDは、次のように設定されています。

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約500MB
Cドライブ	残り

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

消去禁止領域とは

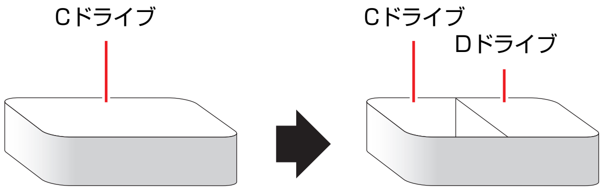
「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。
Windows REの詳細は、p.159「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

＜1台のHDDを分割する＞

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。

詳しくは、p.169「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクターが右側面に2個、左側面に1個、合計3個搭載されています。
USBコネクターにはUSB対応の機器を接続します。3個のコネクターは同じ機能ですので、どのコネクターを使用しても構いません。

制限

- USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB　FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティー」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.120 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

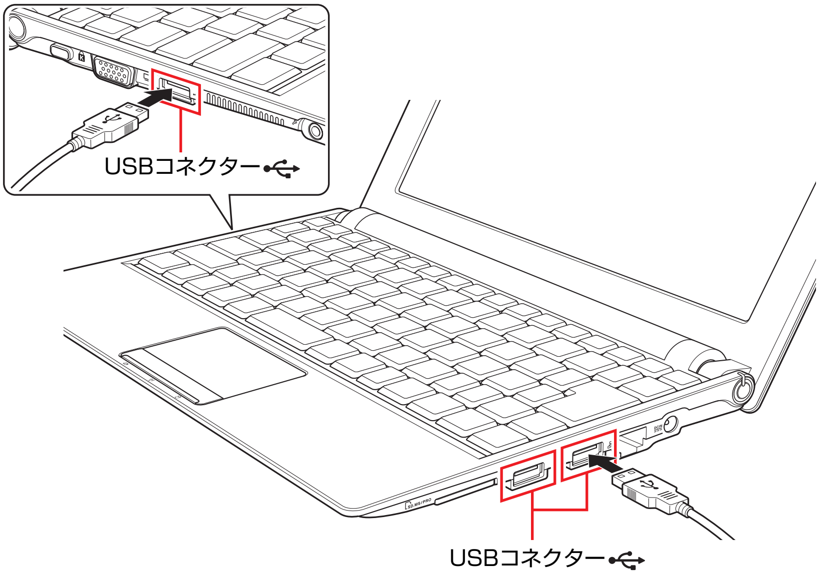
USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

1 **USB機器のUSBコネクターを、本機のUSBコネクター（）に接続します。**



2 **USB 機器によっては、通知領域の［△］内に「取り外し」アイコンが表示されます。**



<イメージ>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

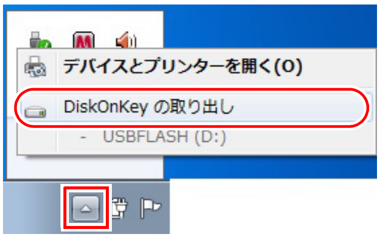
- **そのまま取り外す**
  通知領域の［△］内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。
- **USB機器の終了処理をして取り外す**
  通知領域の［△］内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1 **通知領域の［△］－「取り外し」アイコンをクリックします。**

2 **表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器）の取り出し」を選択します。**

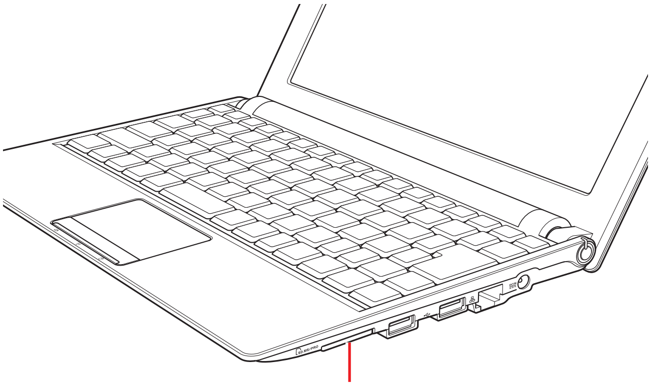
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



3 **「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。**

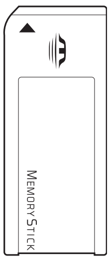
メモリーカードを使う

本機右側面にはメモリーカードスロットが装備されています。メモリーカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピューターとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリーカードを使用することができます。

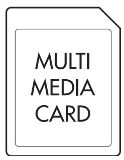


▶本機で使用できるメモリーカード

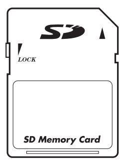
本機で使用できるメモリーカードは、メモリースティック（PRO対応）、マルチメディアカード（plus対応）、SDメモリーカード（SDHC対応）の3種類です。イラストは、各メモリーカード表面のイメージです。



＜メモリースティック＞



＜マルチメディアカード＞



＜SDメモリーカード＞

制限

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティック PRO の高速転送、セキュリティー機能には対応していません。

メモリーカード使用時の注意

メモリーカードは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリーカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリーカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリーカードの種類によっては、セットすると、本機からカードの1部が1.5cm～2.5cm出た状態になります。カードの1部が出た状態で本機を持ち運ぶときは、メモリーカードを破損しないように注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリーカードを取り出してください。
- メモリーカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.105 「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは必ず、メモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモリーカードのセットと取り外し

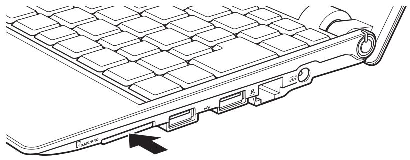
メモリーカードを使用する前に、必ずp.56 「メモリーカード使用時の注意」をお読みください。

メモリーカードのセット

メモリーカードのセット方法は、次のとおりです。

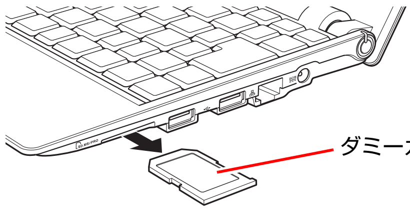
1　メモリーカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

(1) ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。



(2) 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。

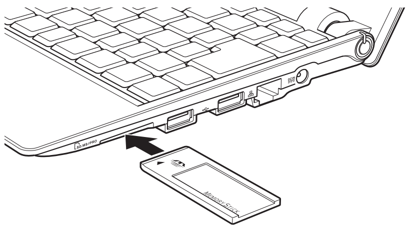
ダミーカードはメモリーカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。



2　メモリーカードの表面を上にしてメモリーカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。

メモリーカードの表面は、p.55「本機で使用できるメモリーカード」で確認してください。



正しくセットしても、メモリーカードの種類によってはスロットから1.5cm～2.5cm出たままになります。本機を持ち運ぶ際は、注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリーカードを取り出し、ダミーカードをセットしてください。

3　認識されると、メモリーカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域の［△］内に「取り外し」アイコンが表示されます。

取り外しアイコン



<イメージ>

メモリーカードの取り外し

メモリーカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1　メモリーカードの終了処理を行います。

本機の電源を切った場合は、終了処理が不要です。手順2に進みます。

(1) 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

(2) 通知領域の［△］ー「取り外し」アイコンをクリックします。

(3) 表示されたメニューから、「(取り出したいメモリーカード) の取り出し」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

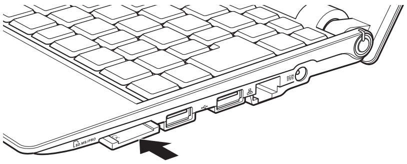


「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、終了処理は完了です。

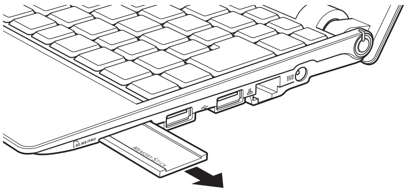
2　メモリーカードを取り外します。

(1) メモリーカードを「カチッ」と音がするまで押します。

強く押すと、メモリーカードが飛び出すことがあるので注意してください。



(2) 少し出てきたメモリーカードをまっすぐに引き抜きます。



取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリーカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

画面表示をする

ここでは、本機LCDユニットの画面表示について説明します。
本機は、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続して画面を表示することができます。

p.64「外付けディスプレイに表示する」

▶LCDユニットの仕様

本機では次のLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 10.1型　WSVGA　最大解像度　1024×600

制限

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して180万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

参考

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、全ドットの0.00043%以下に相当します。

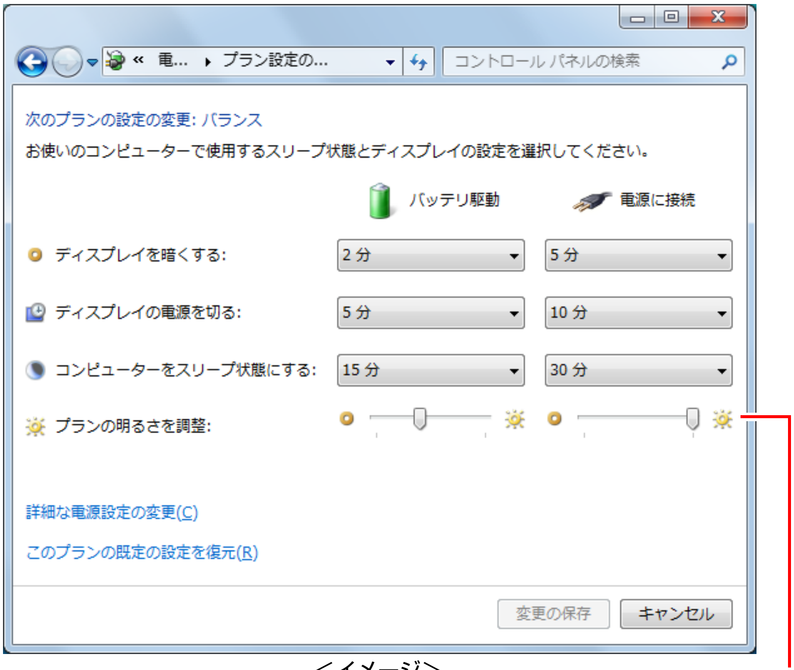
＊「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本機の場合は、1,843,200個の副画素があります。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

▶LCDユニットの調整

画面の明るさ調整

本機の画面の明るさ（輝度）は、次の場所で設定することができます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



<イメージ>

キー操作で調整する

次のキー操作で、輝度を調整することができます。ただし、Windowsを再起動すると元に戻ります。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯方法は、次のとおりです。

キー操作/ LCDユニットの操作	状態
Fn + F7　LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じると、本機は「スリープ」になります。

p.104「省電力状態の種類」

表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。
表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

● 解像度

解像度	10.1型WSVGA
800×600	○
1024×600*	○

*ワイド表示

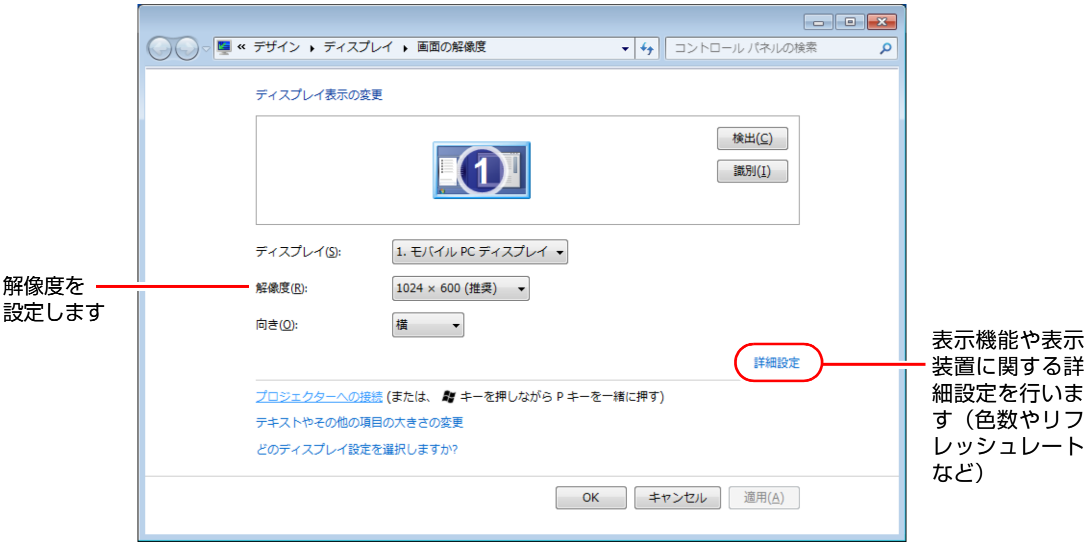
● 表示色

中（16ビット）/ 最高（32ビット）

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何もないところで右クリック－「画面の解像度」



外付けディスプレイに表示する

本機では、外付けディスプレイ（アナログ）を接続して、画面を表示することができます。

制限

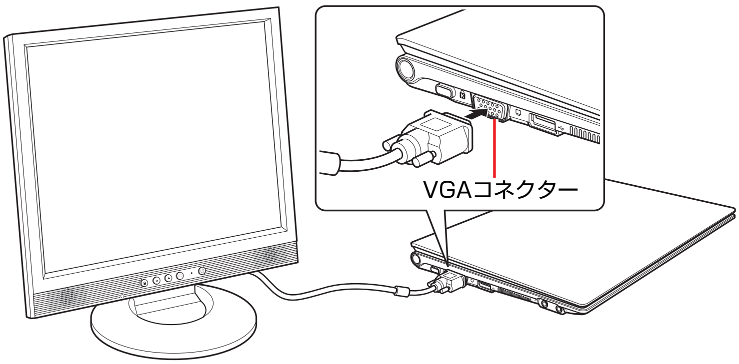
セキュリティーロックスロットに盗難抑止ワイヤーを接続しているときは、VGA コネクターに外付けディスプレイなどのケーブルを接続することができません。

▶ディスプレイの接続

本機に外付けディスプレイを接続すると、自動的に認識され、表示可能になります。
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1　本機と外付けディスプレイの電源を切ります。

2　外付けディスプレイの接続ケーブルを本機左側面のVGAコネクター（□）に接続します。



3　外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押すと、表示装置の切り替えができます。

参考

外付けディスプレイへの表示を終了する
外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windowsを終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入っていなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識され、信号が出力されます。

プロジェクターの接続

プロジェクターの接続方法などは、プロジェクターに添付のマニュアルをご覧ください。

画面表示の種類

本機で対応している画面表示の種類は、次の3つです。

- LCD表示

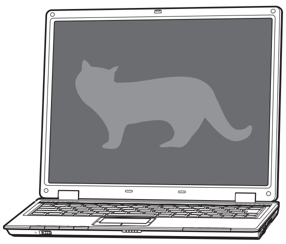
  LCD画面のみに表示します。

- 外付けディスプレイ表示

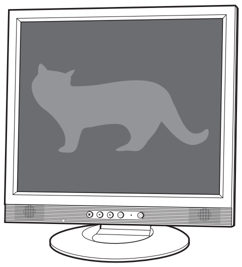
  外付けディスプレイのみに表示します。

- クローン表示

  2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



＜LCD画面＞



＜外付けディスプレイ＞

※Windows 7 Starterでは、拡張デスクトップ表示（拡張モニタ）の機能が使用できません。

▶画面表示を切り替えるには

画面表示の切り替え方法には、次の2つがあります。

● キーボードで切り替える
● ユーティリティーで切り替える

キーボードで切り替える

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押すと、画面表示が切り替わります。
キーボードで切り替えできる表示は、次の3つです。

● LCD Only（LCD表示）
● CRT Only（外付けディスプレイ表示）
● CRT ＋ LCD（クローン表示）

制限

動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードでの表示切り替えができないことがあります。

ユーティリティーで切り替える

ユーティリティーを操作すると、画面表示の切り替えや解像度の変更などを行うことができます。ユーティリティーで切り替えできる表示は、次の4つです。

● シングルディスプレイ
  ・ノートブック（LCD表示）
  ・PCモニタ（外付けディスプレイ表示）
● Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン（クローン表示）
  ・PCモニタ＋ノートブック
  ・ノートブック＋PCモニタ

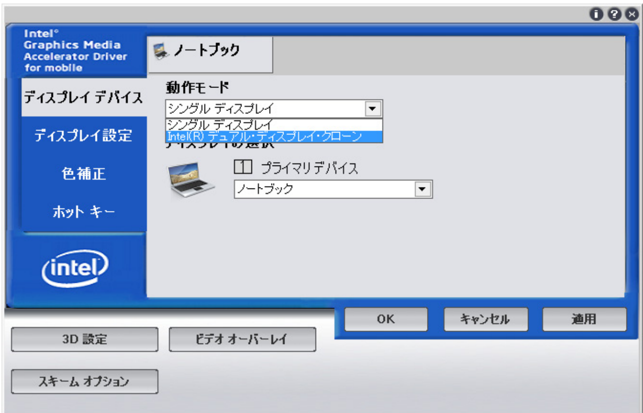
画面表示の切り替え方法は、次のとおりです。

1 **通知領域の［△］－「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」アイコン－「グラフィック プロパティ…」をクリックします。**



<イメージ>

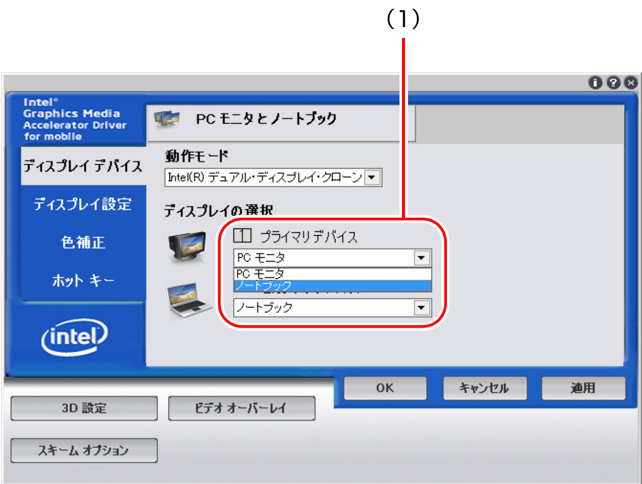
2 **「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」画面が表示されたら、「動作モード」で画面表示の種類を選択します。**



シングルディスプレイを選択した場合は、「ディスプレイの選択」でノートブックまたはPCモニタを選択して手順4へ進みます。

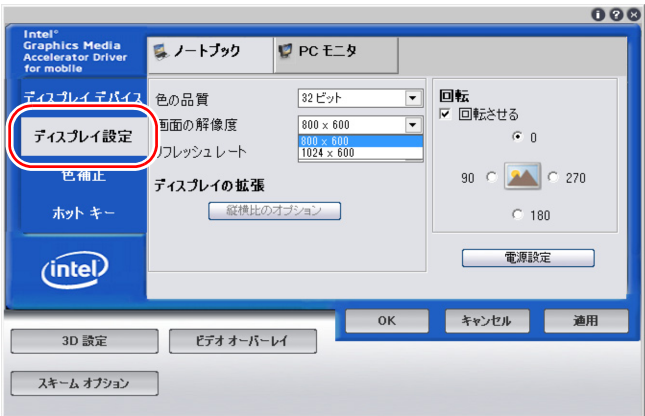
3 「Intel® デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択した場合は、次の設定を行います。

(1) 「プライマリデバイス」または「セカンダリデバイス」を設定します。



(2) 画面表示の設定をします。

「ディスプレイ設定」をクリックし、「ノートブック」タブまたは「PCモニタ」タブで解像度などを設定します。



4 [OK] をクリックします。

5 「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

これで画面表示の切り替えは終了です。

参考

グラフィック オプションから切り替える

画面表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

通知領域の [△] ー「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」アイコンをクリック ー「グラフィック オプション」ー「出力先」

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

● **解像度**　ピクセル（横×縦）

800×600
1024×768
1280×720＊
1280×768＊
1280×1024
1360×768＊
1400×1050
＊ワイド表示

● **表示色**

中（16ビット）/ 最高（32ビット）

制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローンモードの場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を調節してみてください。

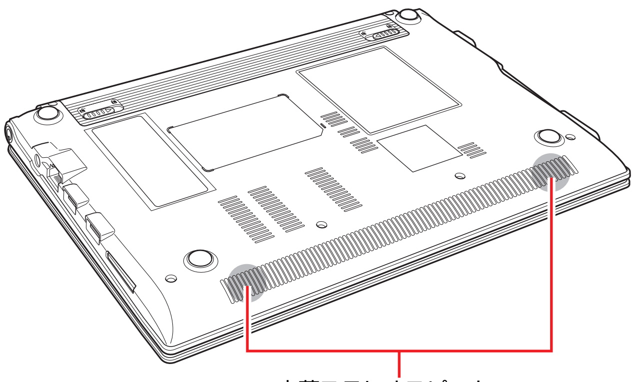
サウンド機能を使う

本機には、次のサウンド機能が搭載されています。

> **注意**
> ヘッドホンやスピーカーは、音量を最小に調節してから接続し、接続後に再度調節してください。
> ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵ステレオスピーカー

本機は、内蔵ステレオスピーカーを搭載し、音源からの音声を出力することができます。



音量の調節

スピーカーの音量は次のキーを押して調節できます。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10 🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11 ▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12 ▲🔊	音量が大きくなります。

内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。



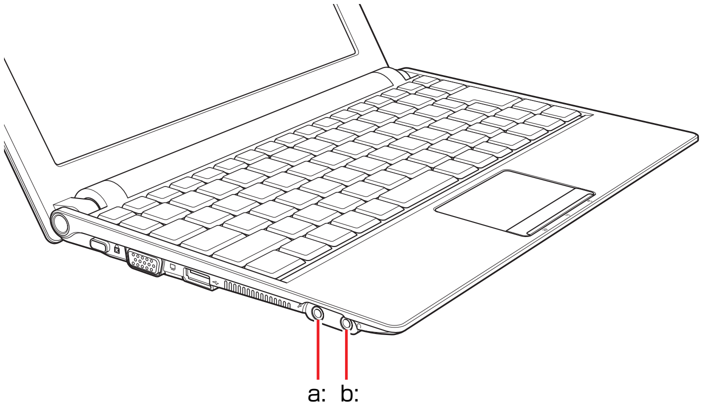
参考

ヘッドホンやマイクの接続

ヘッドホンやマイクを接続すると内蔵スピーカーや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

マイクなどの接続

本機左側面には、スピーカーやヘッドホン、マイクなどを接続するためのコネクターが標準で搭載されています。各コネクターの位置と使い方は、次のとおりです。



a: マイク入力コネクター
マイクと接続して、音声を本機に入力します。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

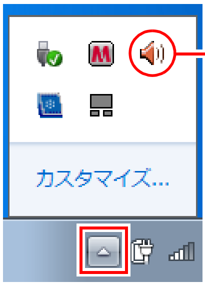
b: ヘッドホン出力コネクター
ヘッドホンやスピーカーと接続します（ステレオ）。音声を出力します。

参考

使用できるマイク
マイク入力コネクターに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

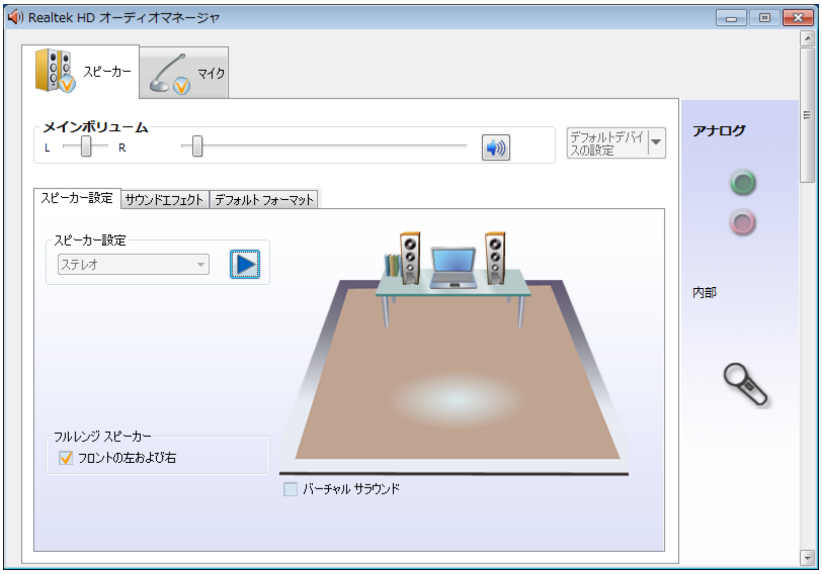
▶サウンドユーティリティーを使う

サウンドユーティリティーを使用すると、音響効果などの設定ができます。
サウンドユーティリティーを起動するには、通知領域の「Realteck HDオーディオマネージャ」アイコンをダブルクリックします。



<イメージ>

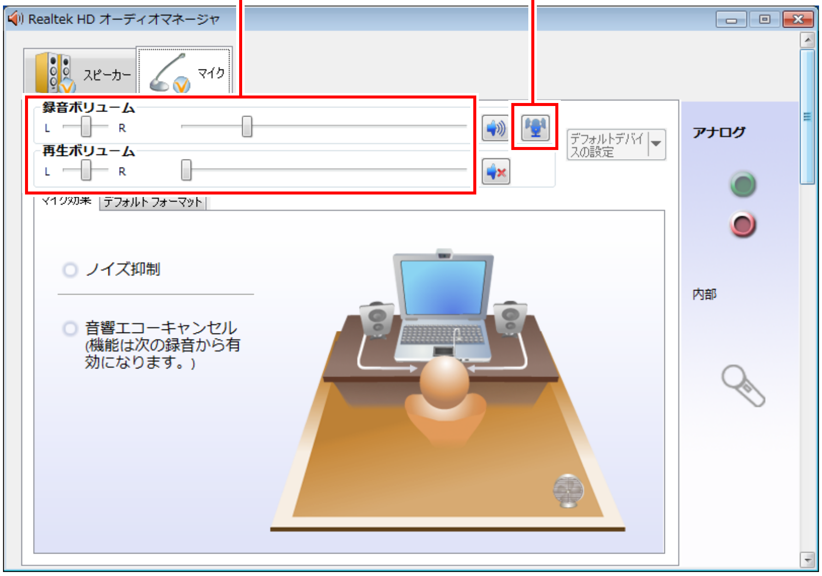
次の画面が表示されます。



マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティーの「マイク」タブで行います。

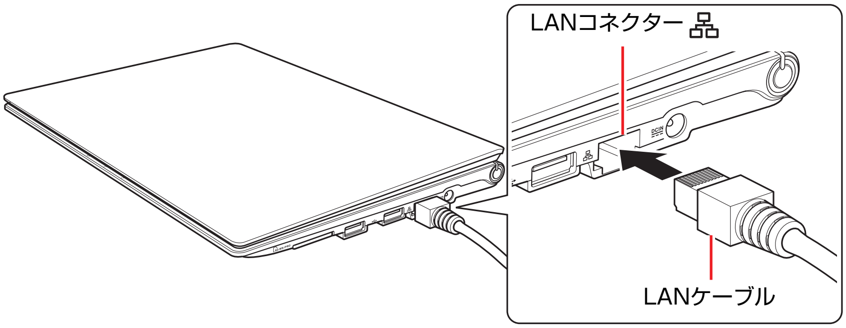
マイクで録音・再生時の音量を調節　マイクブーストの設定



録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックして、表示されたマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機には、100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、本機右側面のLANコネクターに市販のLANケーブルを接続します。



ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・再起動する
  ・省電力状態に移行しないように設定する
  p.105「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.95「インターネットに接続する」をご覧ください。

Wakeup On LAN

本機では、Wakeup On LAN機能を使用することができます。Wakeup On LANとは、ネットワークからの信号により、シャットダウン状態またはスリープ/休止状態の本機を起動させる機能です。

制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

Wakeup On LAN機能を有効にする

購入時、本機のWakeup On LAN機能は無効に設定されています。
Wakeup On LANを行う場合は、次の2つの作業が必要です。

- BIOSの設定変更
- ネットワークドライバーの設定変更

BIOSの設定変更

「BIOS setupユーティリティー」の次の項目を有効にしてください。
「Boot」メニュー画面－「Wake-Up On LAN」：Enabled（有効）
購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.111 「BIOS Setupユーティリティーの操作」
p.124 「Bootメニュー画面」

ネットワークドライバーの設定変更

ネットワークドライバーの設定変更は、次の2つの場合で変更内容が異なります。

- シャットダウン状態から起動させる場合
- スリープ、休止状態から起動させる場合

設定を変更する方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「システム」をクリックします。

2 表示された画面の左側にある「デバイスマネージャー」をクリックします。

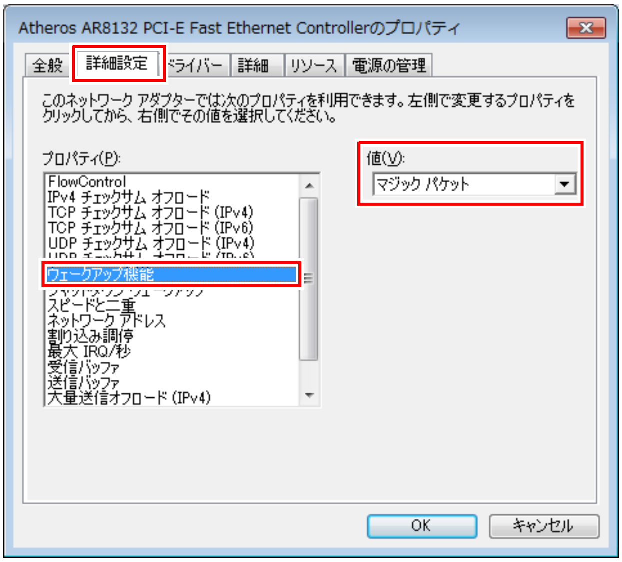
3 「デバイスマネージャー」画面が表示されたら、「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、表示された一覧から「Atheros AR8132 PCI-E Ethernet Controller」をダブルクリックします。

4 「Atheros AR8132 PCI-E Ethernet Controllerのプロパティ」画面が表示されたら、次のとおり作業を続けます。

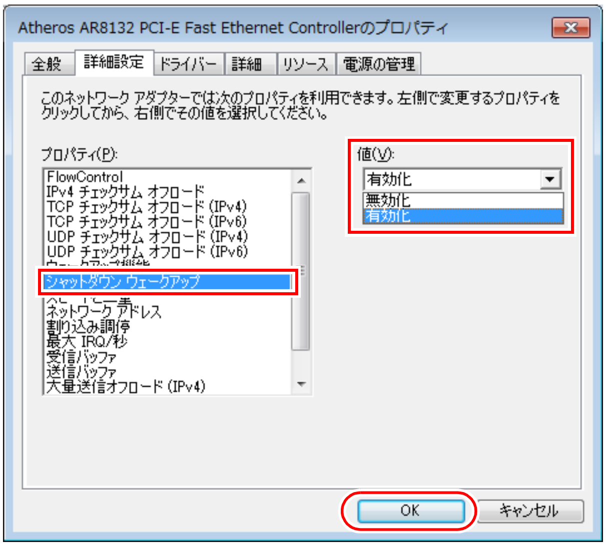
＜シャットダウン状態から起動させる場合＞

(1)「詳細設定」タブをクリックします。

(2)「プロパティ」項目にある「ウェークアップ機能」を選択し、「値」項目が「マジック パケット」になってることを確認します。



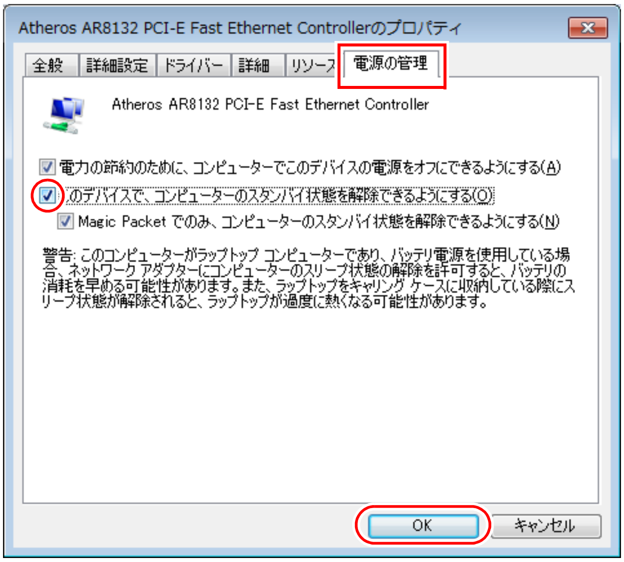
(3)「プロパティ」項目にある「シャットダウン ウェークアップ」を選択し、「値」項目を「有効化」に設定して［OK］をクリックします。



＜スリープ、休止状態から起動させる場合＞

(1)「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」項目の「ウェークアップ機能」を選択して、「値」項目が「マジック パケット」になってることを確認します。

(2)「電源の管理」タブをクリックし、「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付け、［OK］をクリックします。



これでネットワークドライバーの設定変更は完了です。

▶リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsをインストールすることができます。

ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。
購入時、ネットワーク切替えツールはインストールされていません。Windowsセットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールしてください。
『スタートアップガイド』

プロファイルの登録

ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境の設定をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。
※ 複数の無線LAN環境設定を登録できますが、アクセスポイントの切り替えを行うことはできません。

プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。
プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

1 **登録するネットワークに接続します。**

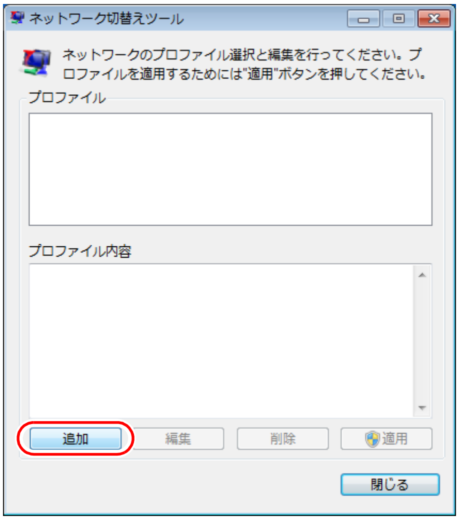
2 **[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「EPSON DIRECT」ー「ネットワーク切替えツール」をクリックします。**

3 **「プロファイルが登録されていません。・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
プロファイルがない場合にのみ表示されます。

4 **「便利な使い方」と表示されたら、記載された手順に従ってタスクバーにアイコン表示を固定させるための作業を行い、[OK] をクリックします。**

5 **「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、［追加］をクリックします。**

以降は、画面の指示に従って、プロファイルを登録してください。



プロファイルの切り替え

必要なプロファイルを登録した後は、ネットワークの接続先に応じて、「ネットワーク切替えツール」でプロファイルを切り替えます。
切り替え手順は、次のとおりです。

1 **切り替えたいネットワークに接続します。**

2 **タスクバーの「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、接続したネットワークのプロファイルを選択して、［適用］をクリックします。**



<ネットワーク切替えツールアイコン>

「ネットワーク切替えツール」アイコンを右クリックして、表示された一覧からプロファイルを選択することもできます。タスクバーにアイコンを表示していない場合は、［スタート］－「ネットワーク切替えツール」をクリックし、「ネットワーク切替えツール」画面を表示してください。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］をクリックします。**

選択したプロファイルのネットワーク設定への切り替えが開始されます。

4 **「ネットワーク設定の切替えを完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

プロファイル一括変更ツール

ネットワーク切替えツールに登録したプロファイルの情報を一括で変更することができます。
使用するときは、[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「EPSON DIRECT」ー「プロファイル一括変更ツール」をクリックします。
表示された画面の指示に従って、プロファイル設定の一括変更を行ってください。

制限

「ネットワーク切替えツール」画面を表示した状態では、プロファイル一括変更ツールを使用できません。
「ネットワーク切替えツール」画面を閉じてから、「プロファイル一括変更ツール」をクリックしてください。

無線LANを使う

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には無線LANアダプターが内蔵されています。

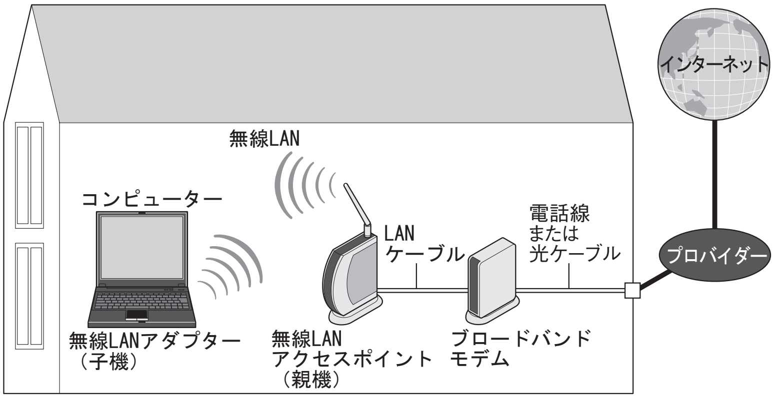
準拠規格

本機に内蔵されている無線LANアダプターは、次の規格に準拠しています。

- IEEE802.11b
- IEEE802.11g
- IEEE802.11n

▶無線LANの概要

無線LANの概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。



無線LANの用語一覧

無線LAN機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント	親機、ワイヤレスLANステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線LANアダプター	子機、ワイヤレスステーション、無線LAN端末、無線LANクライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠蔽、SSIDを見せない設定、SSIDマスクビーコン、SSIDステルス、ステルスAP、ステルス機能、ANY接続拒否
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限

無線LAN使用時の注意

無線LANを使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。

警告

- 無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバーから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.105 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートには対応していません。

電波に関する注意

無線LANは、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機底面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/g、IEEE802.11nを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1. 構内無線局（免許を要する無線局）
    2. 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

無線LAN機能のON/OFF方法

無線LAN機能のON/OFF方法について説明します。

警告

無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

制限

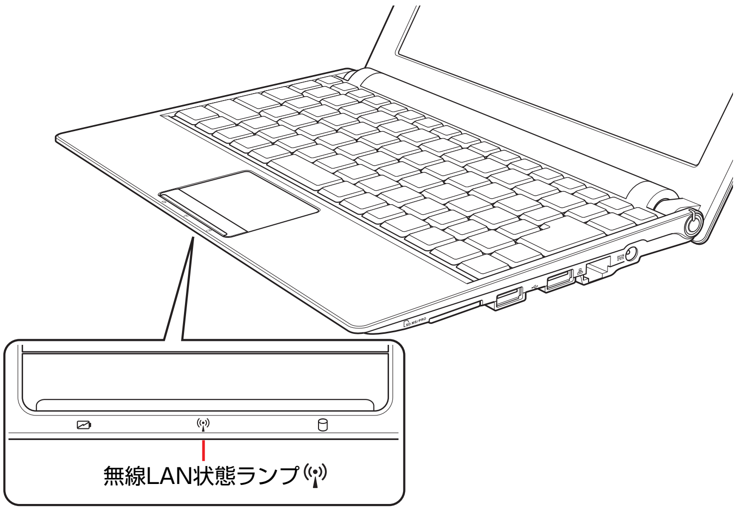
- 有線LANを使用する場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。
- バッテリーのみで本機を使用している場合、無線LAN機能がONになっていると、バッテリー駆動時間が短くなります。無線LANを使用しない場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。

無線LAN機能のON/OFF切り替えは、Fn ＋ F2（(ᵢ)）で行います。
キーを押すたびに、ONとOFFが切り替わります。
購入時、無線LAN機能はOFFになっています。

無線LAN状態ランプ

無線LAN機能のON/OFFは、無線LAN状態ランプ（(ᵢ)）で確認できます。

無線LAN機能	無線LAN状態ランプ
ON	点　灯
OFF	消　灯



▶無線LAN接続の設定をする

ここでは無線LANアクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線LAN接続方法）について説明します。
インターネットへの接続は、無線LAN接続完了後に、プロバイダーから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

無線LAN接続の設定の流れは、次のとおりです。

無線LAN接続に必要な機器を用意する p.86

↓

アクセスポイントにセキュリティー設定をする p.87

↓

本機をアクセスポイントに接続する p.89

↓

無線LANが使用できるようになる

参考

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する
アクセスポイントによっては、アクセスポイントに添付のマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線LAN接続をすることができます。
まずは、アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LAN接続に必要な機器を用意する

無線LAN接続に必要な機器を用意します。

- **無線LANアクセスポイント**
  本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを購入してください。
  アクセスポイントにはルーター付きとルーター無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルーター機能がない場合は、ルーター付きを選択します。
- **ブロードバンドモデム（ADSL用や光ファイバー用の通信装置）**
  インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダーと契約すると貸与されます。
- **LANケーブル**
  ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使用します。

アクセスポイントにセキュリティー設定をする

無線LANは電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティー設定を行います。
セキュリティー設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

1 **本機とアクセスポイントをLANケーブルでつなぎます。**

2 **すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。**

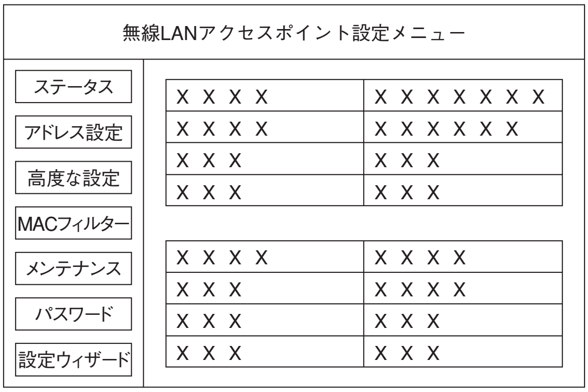
次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティーが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。

3 **本機のファイアウォールを一旦無効に設定します。**

ファイアウォールが有効になっていると、無線LANの設定が正常に行えないことがあります。
設定方法は、☞ セキュリティーソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

4 **アクセスポイントの電源を入れます。**

5 **アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。**



<イメージ>

6 **アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティー設定を行うことをおすすめします。**

- SSIDの変更
  誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントのSSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSIDは他人にも見えていますので、個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。
- 暗号化
  アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。
  暗号化にはいくつかの方式があります。

  セキュリティーレベルの高い暗号化方式を選択することをおすすめします。

  暗号化方式：WPA-PSK（パーソナル）

  アクセスポイントに「WPA」の機能がない場合は、「WEP」を選択してください。

  暗号化の種類：AES

  アクセスポイントに「AES」の機能がない場合は、「TKIP」を選択してください。

制限

IEEE802.11nはWPA-PSK（AES）のみに対応しています。

参考

暗号化方式のセキュリティーレベル

暗号化方式のセキュリティーレベルは次の表を参考にしてください。

レベル	暗号化方式	
高 ↑ 低	WPA	AES
		TKIP
	WEP	

7 **設定内容を下記の表に記入します。**

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID （ワイヤレスネットワーク名）	
暗号化方式 （セキュリティー設定）	
暗号化の種類	
暗号化キー （ワイヤレスセキュリティ パスワード）	
キーインデックス	

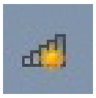
本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定した暗号化キーを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。
この作業は初めて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windowsの再インストールをした場合にも行います。

1 **本機の無線LAN機能をONにします。**

p.85 「無線LAN機能のON/OFF方法」

2 **通知領域の「無線LAN」アイコンまたは「ネットワーク」アイコンをクリックします。**


<無線LANアイコン>

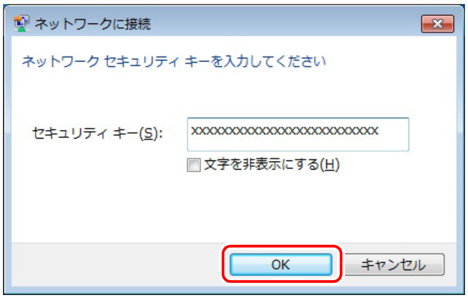

<ネットワークアイコン>

3 **アクセスポイントの一覧が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定したSSID）をクリックし、［接続］をクリックします。**



<イメージ>

4 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、[OK] をクリックします。**



5 **本機のファイアウォールを有効に戻します。**

セキュリティーソフトウェアのマニュアル

6 **本機とアクセスポイントをつないでいるLANケーブルを外します。**

これで接続作業は完了です。

ネットワークプロファイル

ここで設定した無線LANは、「ネットワークプロファイル」として自動的に保存されます。ネットワークプロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線LANに接続することができます。

▶無線LANを使う

無線LAN接続の設定が完了すると、次回からは無線LAN機能をONにするだけで自動的にアクセスポイントに無線LAN接続することができます。

▶インターネット接続の設定

インターネットに接続する場合は、プロバイダーから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

▶強固なセキュリティー設定をする

無線LANのセキュリティー機能には、ほかにも次のようなものがあります。

- MACアドレスフィルタリング
- SSID非通知

セキュリティーをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。
アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MACアドレスフィルタリングをすると、接続を許可したMACアドレスを持つコンピューター以外はアクセスポイントに接続できないようになります。
MACアドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

MACアドレスの確認

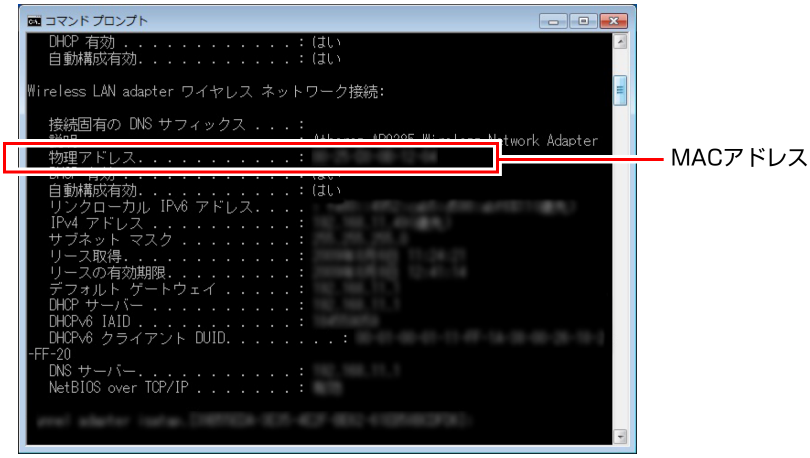
本機のMACアドレスを確認します。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。

2 コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のとおり入力し、［↵］を押します。

ipconfig□/all（□はスペースを意味します）

3 **本機の無線LANアダプターのMACアドレス（物理アドレス）が表示されます。**



MACアドレスの英数値を下記の表に記入しておきましょう。
MACアドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MACアドレス	

4 **をクリックして、コマンドプロンプトを閉じます。**

MACアドレスフィルタリングの設定

アクセスポイントでMACアドレスフィルタリングの設定をします。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、MACアドレスフィルタリングの設定をします。**

2 **p.89「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**

SSID非通知

SSID非通知の設定を行うと、コンピューター側にSSIDが表示されなくなります。他人にアクセスポイント（SSID）が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID非通知の設定方法は、次のとおりです。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID非通知の設定をします。**

2 **p.89「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**
まだ接続ができていない場合は、次の手順で接続してください。

SSID非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する

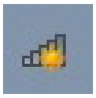
初めて本機をアクセスポイントに接続するときにSSID非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント（SSID）が表示されないため、p.89「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、ネットワークプロファイルを作成してください。

＜p.89「本機をアクセスポイントに接続する」手順1～4の読み替え＞

1 **本機の無線LAN機能をONにします。**

p.85「無線LAN機能のON/OFF方法」

2 **通知領域の「無線LAN」アイコンまたは「ネットワーク」アイコンをクリックします。**



＜無線LANアイコン＞



＜ネットワークアイコン＞

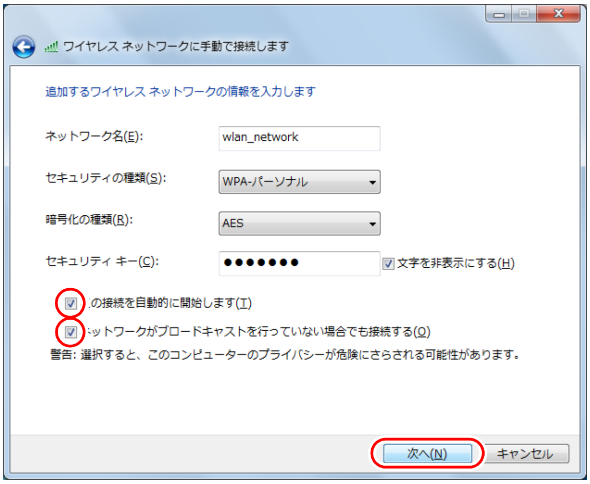
3 **「ネットワークと共有センターを開く」をクリックします。**

4 **「ネットワークと共有センター」が表示されたら、画面左側にある「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックします。**

5 **「使用するワイヤレスネットワークを管理します」と表示されたら、「追加」をクリックします。**

6 **「どのような方法でネットワークを追加しますか？」と表示されたら、「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックします。**

7 「追加するワイヤレスネットワークの情報を入力します」と表示されたら、アクセスポイントに設定したセキュリティー情報を入力します。



＜イメージ＞

(1)「ネットワーク名」にSSIDを入力します。
(2)「セキュリティの種類」で暗号化方式を選択します。
(3)（2）でWPAを選択した場合は、「暗号化の種類」で暗号化の種類を選択します。
(4)「セキュリティキー」に暗号化キーを入力します。
(5)「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けます。
（2）でWPAを選択した場合は、自動でチェックが付いています。
(6)「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

8 「正常に…を追加しました」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。

▶複数の無線LAN環境を登録する

複数の無線LAN環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でネットワークプロファイルを作成します。
手動入力でネットワークプロファイルを作成する方法は、p.93「SSID非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する」をご覧ください。

参考

複数のネットワーク環境の設定を切り替えたい場合
会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。設定方法は、p.79「ネットワーク切替えツールを使う」をご覧ください。

インターネットに接続する

インターネットに接続するには、プロバイダーとの契約が必要です。
プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Windows Liveメール

参考

Officeをインストールしているときは
Officeをインストールしている場合は、電子メールソフトOutlookを使用することもできます。
Outlookの使用方法は、Outlookのヘルプをご覧ください。

各ソフトウェアの起動方法

各ソフトウェアの起動方法は、次のとおりです。

- Internet Explorer

タスクバー左側の「Internet Explorer」アイコンをクリック



＜Internet Explorerアイコン＞

- Windows Live メール

次のどちらかの方法で起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Live」－「Windows Live メール」をクリック
- Fn ＋ F3 （✉）を押す（設定必要）
  p.50「Windows Liveメールを起動するには」

各ソフトウェアの使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「各ソフトウェアのヘルプ」
「PCお役立ちナビ」－［お役立ち］

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティー強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして表示された項目から、適切な対処をしてください。



＜イメージ＞

Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

● JWord

Internet Explorerのアドレスバーにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

● gooスティック

Internet Explorerツールバー上の「goo」検索ボックスにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

● マカフィー・サイトアドバイザプラス

Webサイトの安全性評価を表示するツールです。「マカフィー・サイトアドバイザプラス」を使用する場合は、Internet Explorerのツールバー上の「McAfee SiteAdvisor」ボタンからユーザー登録を行ってください。

セキュリティーソフトウェア「マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版」側でユーザー登録を行った場合、登録は不要です。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティー機能が備えられています。ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

▶Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

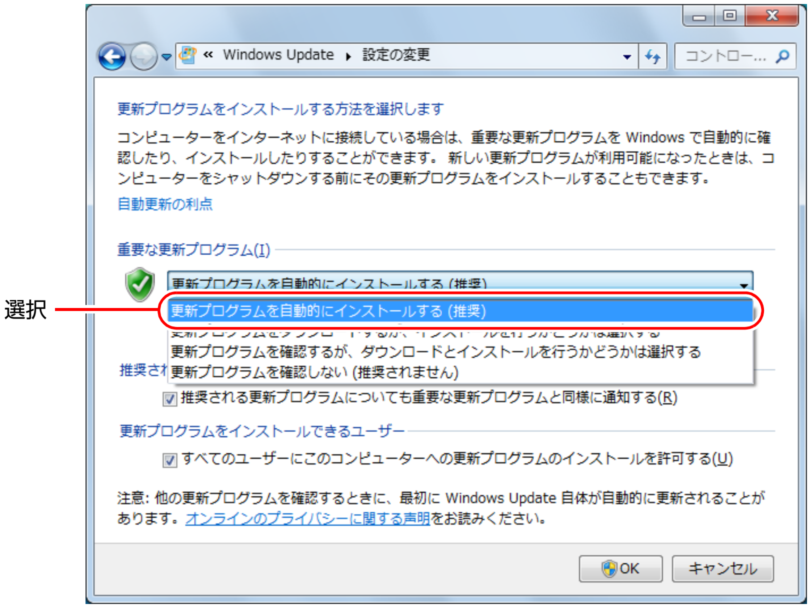
自動更新の設定

本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。
自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windowsのセットアップ時に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「Windows Update」－「設定の変更」



<イメージ>

セキュリティーソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティーソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版」がインストールされています。
マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版の詳細は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－［マニュアルびゅーわ］－『セキュリティーソフトウェアをご使用の前に』



<イメージ>

サポート情報

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－［マニュアルびゅーわ］－『セキュリティーソフトウェアをご使用の前に』

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PCセキュリティセンター90日期間限定版をアンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－［マニュアルびゅーわ］－『セキュリティーソフトウェアをご使用の前に』

▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i－フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i－フィルター 30日版」が添付されています。
家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i－フィルター30日版を使用することをおすすめします。

i－フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi－フィルター 30日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.100 「i－フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i－フィルター 30日版はインストールしないでください。

i－フィルター 30日版の使用方法

i－フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

フィルター強度の初期状態は、中学生向けになっています。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「i−フィルター」アイコンをダブルクリックします。**



<i−フィルターアイコン>

「i−フィルター…」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってから再度設定を行ってください。

p.141「i−フィルター 30日版のユーザー登録」

2 **「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。**

3 **「i −フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。**

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i−フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



<イメージ>

参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティーソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i−フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i−フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i－フィルター 30日版の利用期限

i－フィルター 30日版の利用期限は、ユーザー登録後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

＜継続して利用する場合＞

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

p.102 「i－フィルター 30日版のサポート」

> **制限**
> 本機に添付のｉ－フィルター 30 日版は、「ｉ－フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

＜継続して利用しない場合＞

i－フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i－フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

p.102 「i－フィルター 30日版のサポート」

i－フィルター 30日版のサポート

i－フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/support.htm

省電力機能

ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。特にバッテリーだけで使用している場合は、本機を省電力状態にしておくことで使用時間を延ばすことができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力機能を使用する際には、次の注意事項があります。使用する前に確認して、正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.105 「時間経過で移行させない」
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリーカードや外部接続記憶装置（USB FDDや外付け光ディスクドライブなど）へのデータ書き込み時：データ破壊の可能性
  - ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態で、周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する
    p.105 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

● ディスプレイの電源を切る

省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

● スリープ

作業内容をメモリーに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。
ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。
通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります)。
スリープ状態で6時間経過した場合、またはバッテリー残量が設定したパーセンテージまで低下した場合は、自動的にメモリーの内容がHDDに書き込まれ、本機は「休止状態」になります。

● 休止状態

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。
ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。
シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります)。

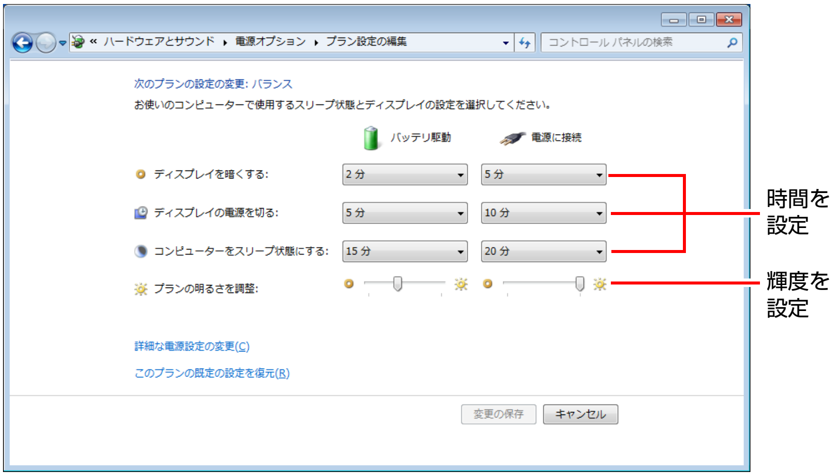
▶省電力状態に移行する方法

本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。
省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所で変更することができます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
電源スイッチ（⏻）を押す	スリープ（初期値）
Fn + F1 （☾zZ）を押す	
LCDユニットを閉じる	
［スタート］－［▷］から項目を選択する	スリープ、休止状態

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプの表示により確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯
スリープ	点滅
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

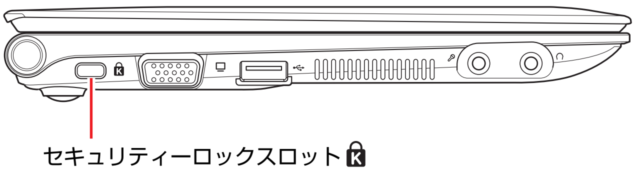
省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯	タッチパッドやキーボードを操作する
スリープ	点滅	・電源スイッチを押す ・キーボードを操作する
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

セキュリティーロックスロット

本機左側面には、「セキュリティーロックスロット」が装備されています。ここには、盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



制限

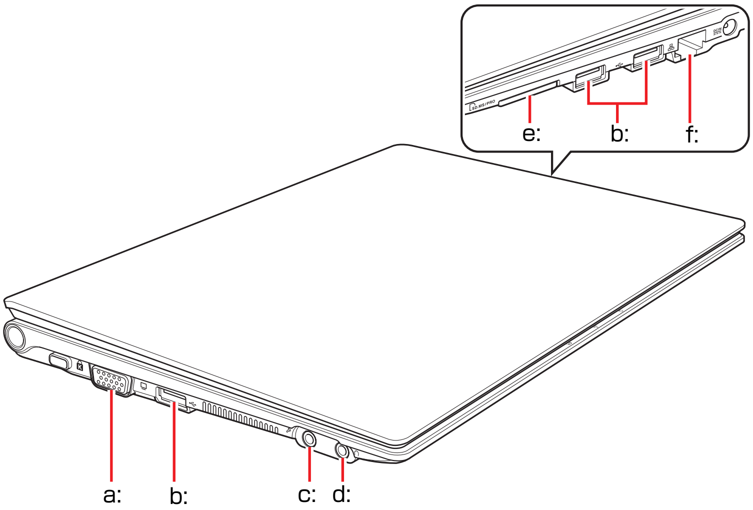
盗難抑止ワイヤーを接続しているときは、VGA コネクターに外付けディスプレイなどのケーブルを接続することができません。

当社では、オプションで盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクターには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクターへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。



a: VGAコネクター
- 外付けディスプレイ（アナログ接続）
- プロジェクター

b: USBコネクター
- プリンター
- スキャナー
- デジタルカメラ
- 外付け光ディスクドライブ
- USB FDD
- USBマウス
- USB対応機器

c: マイク入力コネクター
- マイク

d: ヘッドホン出力コネクター
- スピーカー
- ヘッドホン

e: メモリーカードスロット
- メモリースティック
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

f: LANコネクター
- ネットワーク

そのほかの接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。

- 無線LAN対応機器

第2章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティー」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティーで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティーの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況によって異なりますが、ACアダプターやバッテリーからの電源供給がまったくない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.127 「BIOS Setupユーティリティーの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.116 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティーの操作

ここでは､｢BIOS Setup ユーティリティー｣の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶BIOS Setupユーティリティーの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

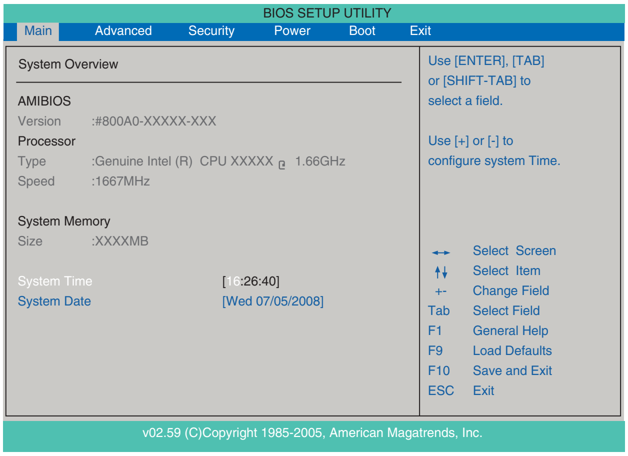
1　本機の電源を入れます。

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2　本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3　「BIOS Setupユーティリティー」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



＜BIOS Setupユーティリティー（イメージ）＞

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to Run SETUP
Press F2 to load default values and continue

このメッセージが表示されたら F1 を押してBIOS Setupユーティリティーを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティーを終了します。

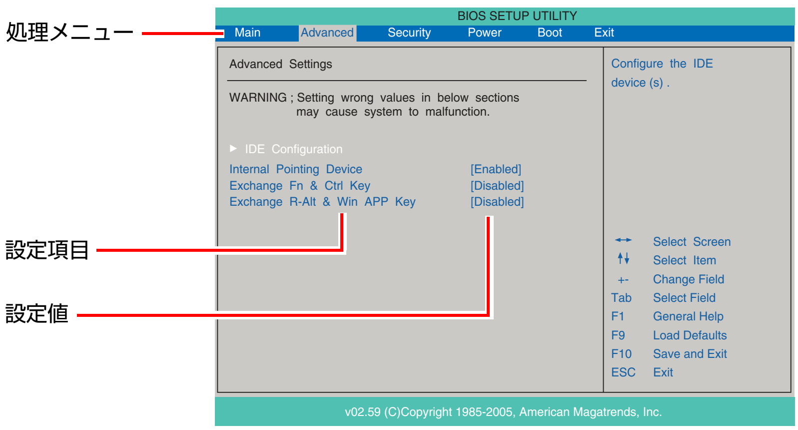
p.115 「BIOS Setupユーティリティーの終了」

▶BIOS Setupユーティリティーの操作

「BIOS Setupユーティリティー」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティーを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面（イメージ）>

ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明はp.122 「BIOS Setupユーティリティーの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setupユーティリティーの操作方法は、次のとおりです。

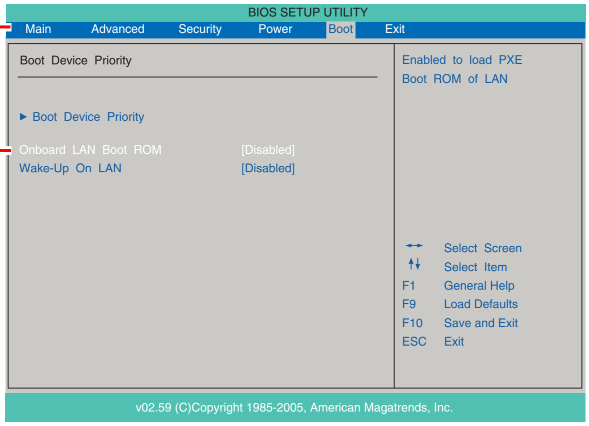
1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

【→】【←】でメニュー間を移動します。

【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

処理メニュー

設定項目を選択

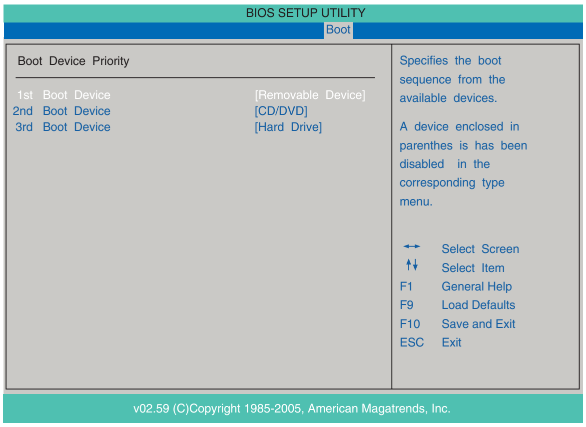


＜メニュー画面（イメージ）＞

＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。

【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

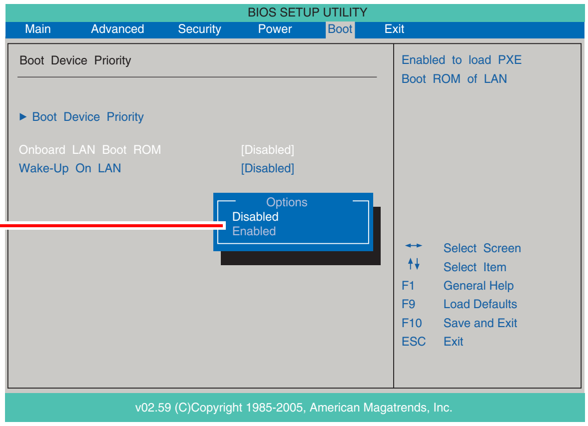


＜サブメニュー画面（イメージ）＞

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

2 設定値を変更します。

【↵】を押して選択ウィンドウを表示し、【↑】【↓】で値を選択し、【↵】で決定します。



選択ウィンドウ

＜イメージ＞

キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
【↑】,【↓】	設定を変更する項目を選択します。
【←】,【→】	処理メニューを選択します。
【Fn】+【-】(【P せ】) 【Fn】+【+】(【* れ】)	項目の値を変更します。
【↵】	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
【Esc】	● 変更した内容を破棄し、終了します。 ☞ p.115「BIOS Setupユーティリティーの終了」 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
【F7】	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。 ☞ p.116 「設定値を元に戻す」
【F9】	全設定項目の値を初期値に変更します。 ☞ p.116 「設定値を元に戻す」
【F10】	変更した設定値を保存して終了します。 ☞ p.115 「BIOS Setupユーティリティーの終了」

▶BIOS Setupユーティリティーの終了

「BIOS Setupユーティリティー」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

1 【F10】を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、【↵】を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

1 【Esc】を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、【↵】を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティー」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティーの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティーの設定を、BIOSの初期値に戻します。
※「Security」メニュー画面にある項目の設定は、初期値に戻りません。

1 **F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティーを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき

パスワードの種類

パスワードには次の3種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）
  コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
  管理者パスワード設定すると、ユーザーパスワードも設定可能になります。
  管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。
- User Password（ユーザーパスワード）
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます（権限は、設定変更することができます）。
  p.118 「ユーザーパスワードの権限設定」
- Primary Master HDD User Password（HDDパスワード）
  本機内部のHDDへのアクセスを制限するためのパスワードです。
  HDDパスワードを設定すると、HDDをほかのコンピューターに接続した場合、認識されません。

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

制限

> 設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。
> 万一、管理者パスワードやHDDパスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」、「Primary Master HDD User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter New Password
```

2　パスワードを入力し、↵ を押します。

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

3　続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵ を押します。

```
Confirm New Password
```

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で ↵ を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4　「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で ↵ を押します。

パスワードの設定が完了すると、パスワード項目の値が次のように変わります。

パスワード項目	変更後の値
Supervisor Password	Installed
User Password	Installed
Primary Master HDD Password Status	Enabled

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

p.125 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティー起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

p.125 「Securityメニュー画面」－「Password Check」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」、「Primary Master HDD User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **何も入力せずに［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Password uninstalled.
［Ok］

3 **［Ok］が選択された状態で［↵］を押します。**

パスワードの削除が完了すると、パスワード項目の値が次のように変わります。

パスワード項目	削除後の値
Supervisor Password	Not Installed
User Password	Not Installed
Primary Master HDD Password Status	Disabled

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードは、別の方法で簡単に削除することができます。簡単な削除方法は、次のとおりです。

1 **「Clear User Password」を選択して、［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択し、［↵］を押します。**

「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。

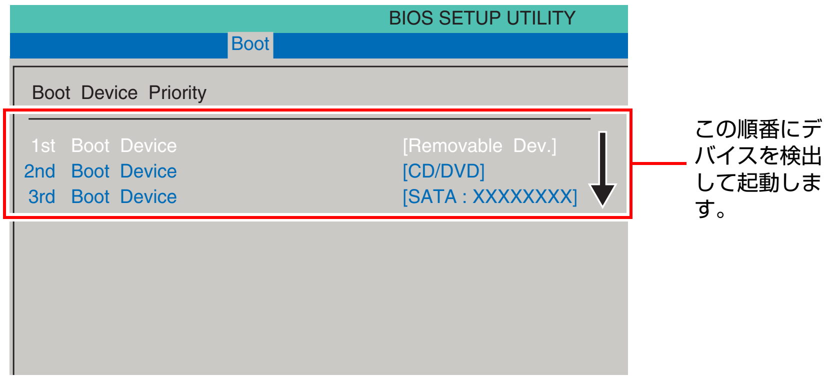
これで、ユーザーパスワードが削除されました。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリーやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにメディアがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。
このような場合、「BIOS Setupユーティリティー」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsなどのOS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable Dev.[*1]（USB FDDやUSBフラッシュメモリー、USB HDDなど）
- CD/DVD[*1]（外付けの光ディスクドライブ）
- SATA:XXXXXXXX[*2]（本機に搭載のHDD）
- Network:Atheros Bo（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

初期値では、Removable Dev.がHDDより前に設定されているため、USBフラッシュメモリーなどのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

*1 機器を接続している場合は、「USB:（機器の名称など）」と表示されます。
*2 XXXXXXXXには、本機に搭載されたHDDの型番が表示されます。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、外付け光ディスクドライブ、HDD、リムーバブルディスクの順番に設定する方法を説明します。

1 **「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して[↵]を押します。**

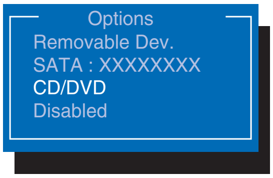
2 **サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。**

購入時は、リムーバブルディスク、外付け光ディスクドライブ、HDDの順番に起動するように設定されています。

3 **外付け光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。**

(1) [↑] [↓]で「1st Boot Device」(1番目)を選択し、[↵]を押します。
(2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、[↑] [↓]で「CD/DVD」を選択し、[↵]を押します。

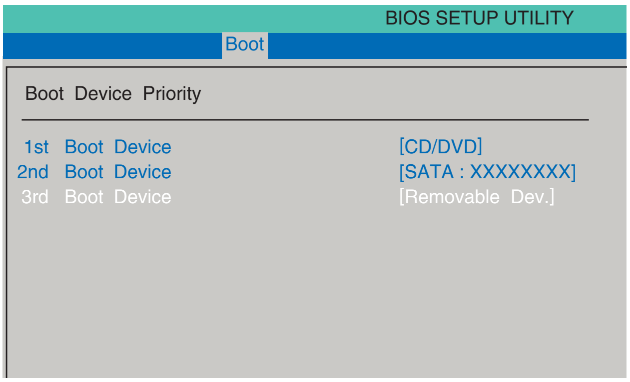
外付け光ディスクドライブの順番が1番目になります。



＜選択ウィンドウ画面＞

4 **同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。**

「2nd Boot Device」（2番目）を「SATA:XXXXXXXX」に設定します。自動的に「3rd Boot Device」（3番目）が「Removable Dev.」に設定されます。



5 **[F10]を押してBIOS Setupユーティリティーを終了します。**

p.115 「BIOS Setupユーティリティーの終了」

起動デバイスの順番が変更になり、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティーの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティーで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティーのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- **Mainメニュー画面**
  日付、時間などの設定を行います。
- **Advancedメニュー画面**
  IDE装置の仕様（転送モードやパラメーター）やタッチパッドの設定を行います。
- **Bootメニュー画面**
  システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
- **Securityメニュー画面**
  パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
- **Exitメニュー画面**
  BIOS Setupユーティリティーを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

＊は項目表示のみ

BIOS Information	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
	Build Date	BIOSが開発された日付（月／日／年）を表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリー容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメーター）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Model Name	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled ：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange L-Ctrl & Fn key		キーボードの左下にある Ctrl と Fn の機能を設定します。 Disabled：キー上部に印字されている Ctrl と Fn になります。 Enabled ：キー下部に印字されている Fn と Ctrl になります。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下にある Alt をアプリケーションキーの機能に入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled： Alt の機能を入れ替えません。 Enabled ： Alt をアプリケーションキーの機能に入れ替えます。

▶Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
起動の順番の変更方法については、p.120 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Dev.」です。リムーバブルディスク（USB FDDやUSBフラッシュメモリーなど）を接続した場合は、機器の名称などが表示されます。
	2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。外付け光ディスクドライブを接続した場合は、ドライブの名称などが表示されます。
	3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、本機に搭載のHDD「SATA:（HDDの型番）」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Network:Atheros Bo」です。
Hard Disk Drives	*1st Drive	本機に搭載されているHDDの型番を表示します。
CD/DVD Drives ※外付け光ディスクドライブを接続すると表示されます。	*1st Drive	外付け光ディスクドライブの名称などを表示します。
Full Screen Logo		起動時の画面に「EPSON」と表示するかどうかを設定します。 Disables：表示しません。 Enabled ：表示します。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		シャットダウン時やスリープ時、休止状態の本機を、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。 この機能を使用するときは、必ずACアダプターを接続してください。また、シャットダウンからの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled ：設定します。

▶Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.117 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed　：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティーやWindows起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティーにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access：BIOS Setupユーティリティーを起動することができません。 View Only：BIOS Setupユーティリティーを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited：BIOS Setupユーティリティーを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOS Setupユーティリティーのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。BIOS Setupユーティリティー起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password ※「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。 [↵]を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup：BIOS Setupユーティリティー起動時にパスワード入力を要求します。 Always：BIOS SetupユーティリティーやWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection	HDDのブートセクター（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled：書き込みを許可します。 Enabled：書き込みを禁止します。

I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。	Audio	サウンド機能を使用するかどうかを設定します。 UNLOCKED ：サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED ：サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能を使用するかどうかを設定します。 UNLOCKED ：LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED ：LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN	無線LAN機能を使用するかどうかを設定します。 UNLOCKED ：無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED ：無線LAN機能の使用を不可にします。
	USB	USB機能を使用するかどうかを設定します。 UNLOCKED ：USB機能の使用を可能にします。 LOCKED ：USB機能の使用を不可にします。 ※「LOCKED」に設定すると、「SD Card Reader」項目の表示がなくなり、メモリーカード機能も使用できなくなります。
	SD Card Reader	メモリーカード 機能を使用するかどうかを設定します。 UNLOCKED ：メモリーカード機能の使用を可能にします。 LOCKED ：メモリーカード機能の使用を不可にします。 ※ここで「UNLOCKED」を設定していても、「USB」項目を「LOCKED」に設定するとメモリーカード機能は使用できなくなります。
*Primary Master HDD Password Status		「Primary Master HDD User Password」（HDDパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Disabled ：パスワードが設定されていません。 Enabled ：パスワードが設定されています。
Primary Master HDD User Password		HDDパスワードを設定します。 パスワードを設定したHDDは、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 BIOS Setupユーティリティー起動時、システム起動時や休止状態からの復帰時にHDDパスワードの入力が必要です。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティーを終了したり、BIOSの設定を初期値に戻したりします。
設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティーを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティーを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティーを終了させずに、変更した設定値を前回保存した値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティーを終了せずに、「Security」メニュー以外の設定を初期値に戻します。

▶BIOS Setupユーティリティーの設定値

BIOS Setupユーティリティーで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange L-Ctrl & Fn key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Full Screen Logo		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password		Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Password		Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Access Level*		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
Password Check*		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	Audio	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	SD Card Reader	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
Primary Master HDD Password Status		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

＊「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

第3章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

本書では、HDDをフォーマットしてWindowsや本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリー」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。
p.159 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。
※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－［トラブル解決］－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i ーフィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。
この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。
詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/support.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業を進めてください。

PCお役立ちナビのバックアップ

サポートツール「PCお役立ちナビ」に収録されているコンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）は、再インストールをすると消えてしまいます。
再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。
p.166 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要な機器とメディア

再インストールには、次の機器とメディアが必要です。

- **外付け光ディスクドライブ**
  本機には光ディスクドライブが搭載されていません。使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを本機に接続してください。
- **Windows 7 リカバリー DVD**
  Windows 7 StarterとWindows Live Suiteが収録されているDVD-ROMです。
- **ドライバー CD**
  本体ドライバーやソフトウェアが収録されているCD-ROMです。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。
★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。
購入時のインストール状態は、p.17 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

Windows ★
p.133 「Windowsのインストール」

↓

本体ドライバー ★
p.138 「本体ドライバーのインストール」

↓

Adobe Reader ★
p.138 「Adobe Readerのインストール」

↓

セキュリティーソフトウェア ★
p.139 「セキュリティーソフトウェアのインストール」

↓

Windows Live Suite ★
p.140 「Windows Live Suiteのインストール」

↓

Webフィルタリングソフトウェア
p.141 「Webフィルタリングソフトウェアのインストール」

↓

JWord Plugin
p.142 「JWord Pluginのインストール」

↓

gooスティック
p.142 「gooスティックのインストール」

↓

そのほかのインストール
p.143 「そのほかのインストール」

↓

再インストール後の作業
p.144 「再インストール後の作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプターを接続して行ってください。

管理者（Administrator）アカウントでログオン

インストール作業は、管理者（Administrator）のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

ドライブ名

本章では、HDDをCドライブとして説明します。

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。
p.134 「バックアップを取る」

初期設定ツール

購入後のWindowsセットアップ時に使用した初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。
初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsインストール作業の主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.134 「Windows 7をインストールする」以降の手順に従って行ってください。

バックアップを取る
↓
本機を購入時の状態にする
↓
外付け光ディスクドライブを接続する
↓
BIOSの表示を確認する
↓
インストールの開始（Windows 7のインストール 手順1～）
↓ ↓
HDD領域（Cドライブ）の変更
p.169「C ドライブを分割・変更する」
↓
HDDのフォーマットとファイルのコピー
↓
セットアップ（手順12～）
↓
終了

HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割の詳しい説明は、p.168 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows 7をインストールする

バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。必要に応じてバックアップを行ってください。*

- **PCお役立ちナビのデータ**
  p.166 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」
- **ネットワークの設定**
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールデータ**
  p.166 「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **重要なデータ**
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。
  p.166 「データのバックアップ」

* 再インストール中にHDD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。HDD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

コンピューターを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

外付け光ディスクドライブを接続する

インストールに使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを、本機に接続してください。

BIOSの表示を確認する

外付け光ディスクドライブを接続したら、BIOS Setupユーティリティーの表示を確認します。

1 **「BIOS Setupユーティリティー」を起動します。**

p.111「BIOS Setupユーティリティーの起動」

2 **「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。**

3 **「Boot Device Priority」の「2nd Boot Device」の表示が［USB：（外付け光ディスクドライブの名称など）］になっていることを確認します。**

［CD/DVD］と表示されている場合は、本機が外付け光ディスクドライブを認識していません。［F10］を押してBIOSを終了し、外付け光ディスクドライブを本機と接続しなおしてから、再度、BIOSの表示を確認してください。

4 **［F10］を押してBIOSを終了します。**

Windows 7のインストール

Windows 7のインストール方法は、次のとおりです。

1 **Windowsが起動した状態で「Windows 7リカバリー DVD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**

「自動再生」画面が表示されたら、［×］をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

2 **［スタート］－［▷］－「再起動」をクリックして、本機を再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

「Windows インストールを検索しています...」と記載された画面が表示されます。

5 **オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

6 **「回復オプションにアクセスするには、･･･」と表示された場合は、「ユーザー名」で管理者アカウント名を選択し、パスワードを設定していた場合はパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

7 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。

8 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、［はい］をクリックします。

次の画面が表示されるまで、数分かかる場合があります。

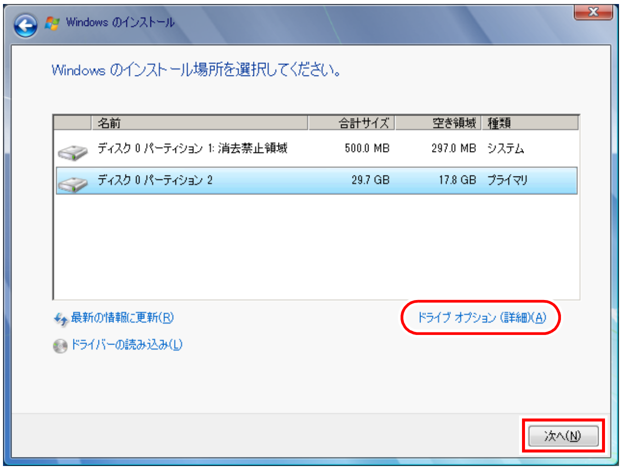
9 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

10 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

11 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

(1)「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。



＜イメージ＞

(2)「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。

(3)「パーティションには…」と表示されたら、［OK］をクリックします。

フォーマットが開始されます。

(4) フォーマットが終了すると、［次へ］がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で［次へ］をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分程度かかります。手順12の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

＜領域変更を行う場合＞

p.171 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

12 **「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、［次へ］をクリックします。**

13 **「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード（任意）を入力し、［次へ］をクリックします。**

14 **「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。**

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

15 **「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、［次へ］をクリックします。**

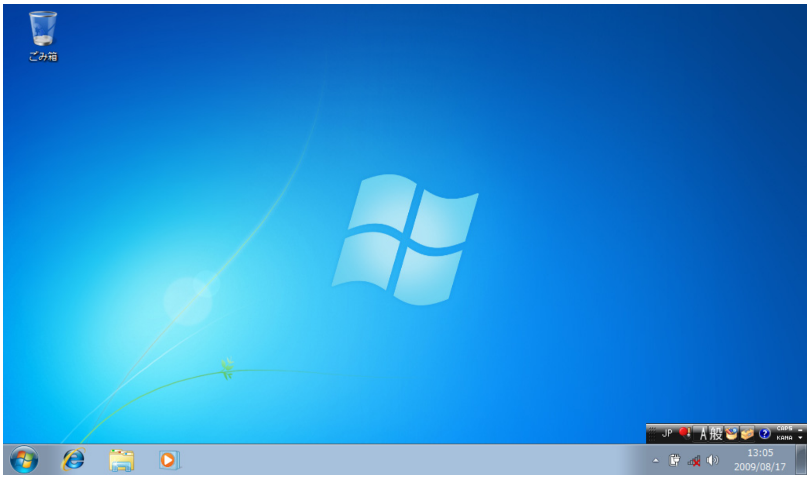
16 **無線LAN機能が有効になっている場合、「ワイヤレスネットワークへの接続」と表示されます。ここでは［スキップ］をクリックします。**

ワイヤレスネットワークの設定は、後で行います。

p.86 「無線LAN接続の設定をする」

17 **ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。**

18 **Windowsのデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7リカバリー DVD」を取り出します。**



これでWindowsのインストールは完了です。

19 **手順11で領域変更を行った場合は、「未割り当て領域」に領域（パーティション）を作成します。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバーやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。

p.172 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

本体ドライバーのインストール

本機のドライバー類を、一括してインストールします。
インストールの手順は次のとおりです。

1 **「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］－「コンピューター」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］をクリックします。**

4 **「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。**

5 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**
各ドライバーが自動的にインストールされます。インストールには、十数分かかります。

6 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

7 **「インストール処理」画面が表示されたら、インストールが正常に終了したかを確認して［PC再起動］をクリックします。**
Windowsが再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 **「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］－「コンピューター」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］をクリックします。**

4 **「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「Adobe Reader」をクリックします。**

5 **「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

6 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 **「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「Adobe Reader使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。

これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティーソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティーソフトウェア「マカフィー・セキュリティセンター 90日期間限定版」をインストールします。
市販のセキュリティーソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版のインストール

マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版のインストール方法は、次のとおりです。

1 **「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**

「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] －「コンピューター」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。**

4 **「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「McAfee PC Security Center 90日版」をクリックします。**

5 **マカフィーのインストール画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶Windows Live Suiteのインストール

「Windows Live Suite」は、「Windows Liveメール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。インストール用のデータは、「Windows 7リカバリーDVD」に収録されています。
Windows Live Suiteのインストール手順は、次のとおりです。

1 「Windows 7リカバリーDVD」を外付け光ディスクドライブにセットします。

2 「自動再生」画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] －「コンピューター」－「EPSON_DVD」をダブルクリックします。

3 表示された一覧から、「WINDOSLIVE」フォルダーをダブルクリックします。

4 「WLSETUP-ALL」をダブルクリックします。

5 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

6 「サービス利用規約」と表示されたら、[同意する] をクリックします。

7 「インストールする製品を選択してください」と表示されたら、インストールしたい製品にチェックを付けて、[インストール] をクリックします。
購入時にインストールされている製品は、次のとおりです。

- Messenger
- メール
- フォトギャラリー
- ムービーメーカー
- Writer
- Silverlight

8 「レジストリの変更が検出されました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

9 「もう少しで完了です」と表示されたら、[続行] をクリックします。

10 「Windows Liveへようこそ！」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これで、Windows Live Suiteのインストールは完了です。

Webフィルタリングソフトウェアのインストール

「i−フィルター 30日版」は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

p.100 「Webフィルタリングソフトウェア」

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

i−フィルター 30日版のインストール

i−フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

1. **「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
2. **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
   「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] −「コンピューター」−「EPSON_CD」をダブルクリックします。
3. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。**
4. **「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「i−フィルター 30日版」をクリックします。**
5. **「i−フィルター･･･インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。**
7. **「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
8. **「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**
   デスクトップ上に「i−フィルター」アイコンが表示されたら、i−フィルター 30日版のインストールは完了です。
   続いて、i−フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i−フィルター 30日版のユーザー登録

i−フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「i−フィルター」アイコンをダブルクリックします。**
   Windowsを再起動した場合は、「i−フィルター…」画面が自動的に表示されます。

2 「i －フィルター･･･」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i－フィルター」を使ってみる] をクリックします。

3 「「i－フィルター」の開始」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。

JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。

2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] －「コンピューター」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「JWord Plugin」をクリックします。

5 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。

2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] －「コンピューター」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「goo スティック」をクリックします。

5 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

各種ドライバーのインストール

お使いになる機器によっては、ドライバーやユーティリティー、ソフトウェアなどのインストールが必要な場合があります。インストールは、機器類に添付のメディアを使用します。詳しくは、お使いになる機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

参考

インストールが必要なドライバーの例

お使いになる機器によって、次のようなドライバーやユーティリティーが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合　：プリンターに添付のドライバー

本機と同時に購入されたマウスなどオプション品のドライバー類や、本機の最新ドライバーは、当社Webからダウンロードしてインストールすることもできます。
詳しくは、インターネット接続後に下記のページをご覧ください。

http://www.epsondirect.co.jp/support/redirect.htm?content=Na03mini

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未割り当て」の領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」で、領域の作成を行います。

p.174「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LANを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.75「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.82「無線LANを使う」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.166「データのバックアップ」

- PCお役立ちナビのデータ
- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
- 重要なデータ

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windowsが最新の状態になります。

p.98「Windows Update」

第4章
困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

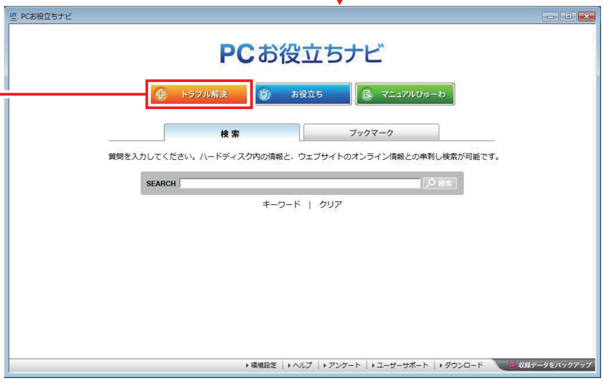
▶起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PCお役立ちナビ」の［トラブル解決］で対処方法を探してください。

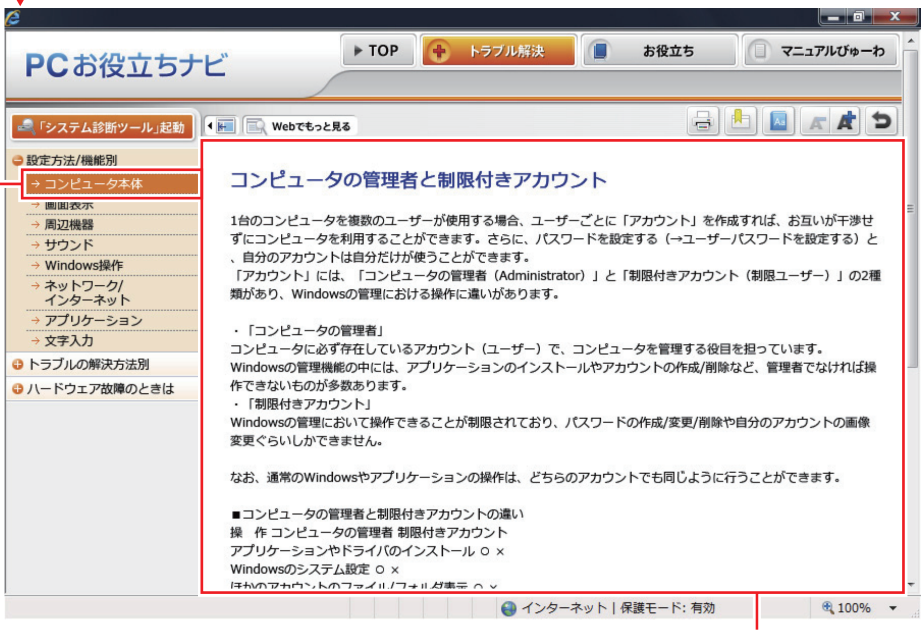


ダブルクリック

<PC お役立ちナビアイコン>



トラブルの種類を選択します



<イメージ>

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます

Windowsのトラブルシューティングツール

Windows 7にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

[スタート] ‒「コントロールパネル」‒「システムとセキュリティ」‒「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってみてください。

▶起動・画面表示できない場合

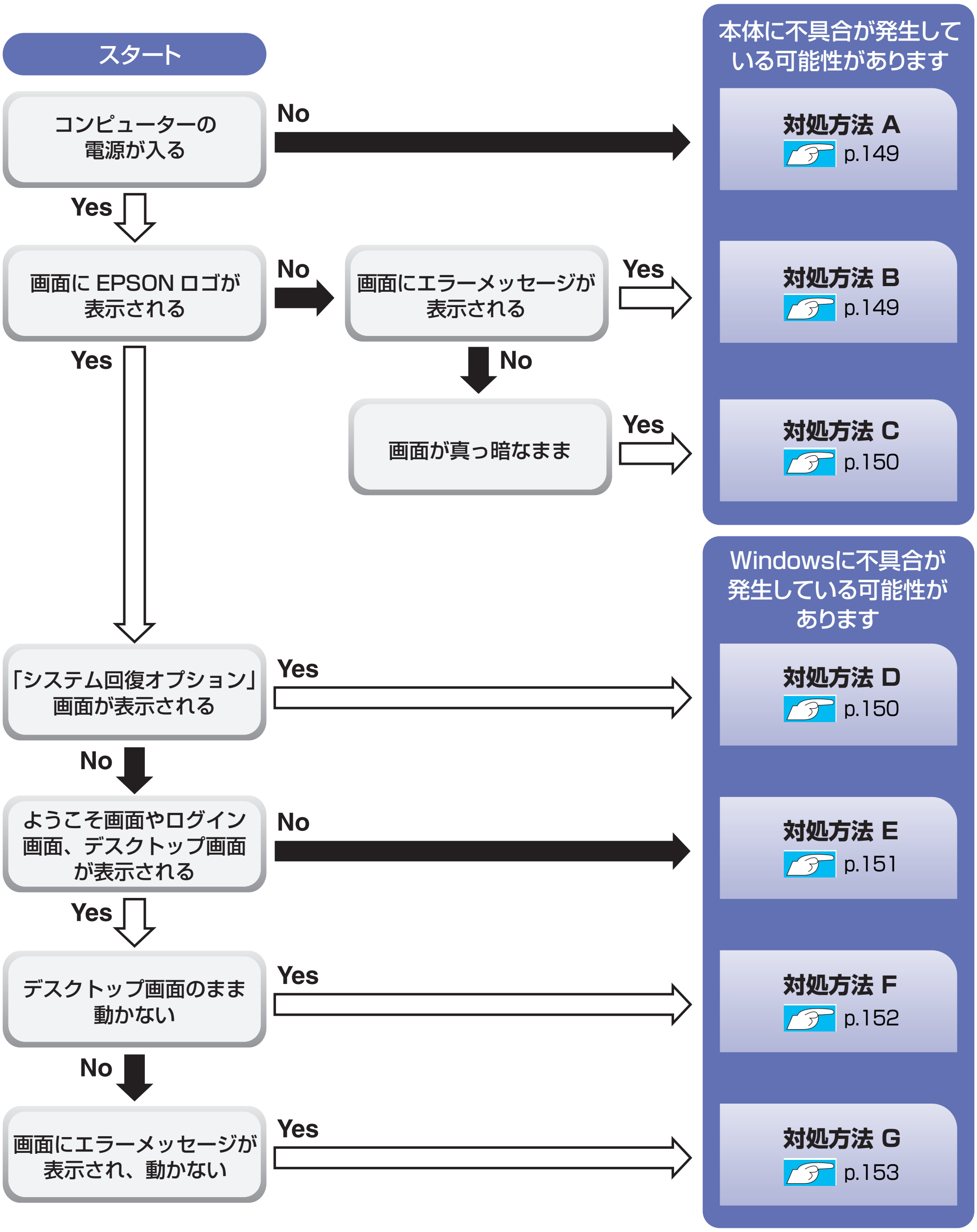
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、p.148「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、p.149「対処する」へ進んでください。



▶対処する

コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。対処しても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法　A

次の対処を順番に行ってみてください。

1　コンピューターの電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2　電源コード/ACアダプター /バッテリーパックを接続しなおす

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューターの電源を切ってから、電源コード、ACアダプター、バッテリーパックを外して1分程度放置し、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

バッテリーのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプターを接続して使用してみてください。

3　周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法　B

まず、p.154 「警告メッセージ」をご覧になり、エラーメッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、次の対処を順番に行ってみてください。

1　周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法　C

次の対処を順番に行ってみてください。

1　電源コード/ACアダプター /バッテリーパックを接続しなおす

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューターの電源を切ってから、電源コード、ACアダプター、バッテリーパックを外して1分程度放置し、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

バッテリーのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプターを接続して使用してみてください。

2　周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法　D

次の対処を行ってみてください。

1　Windows 回復環境（Windows RE）で不具合対処をする

p.159 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

対処方法　E

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューターの電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.156「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.157「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

p.158「前回正常起動時の構成で起動する」

5 BIOS の設定を初期値に戻す

BIOS の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOS の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOS の設定をメモしておいてください。

p.116「設定値を元に戻す」

6 Windows REを使う

「Windows回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windowsを修復してみてください。

p.159「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

7 Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.131「ソフトウェアの再インストールを行う」

対処方法　F

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューターの電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.156「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

p.157「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.157「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

p.158「前回正常起動時の構成で起動する」

5 Windows REを使う

「Windows回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windowsを修復してみてください。

p.159「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

6 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.131「ソフトウェアの再インストールを行う」

対処方法　G

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューターの電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.156 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

p.157 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.157 「システムの復元」

3 Windows REを使う

「Windows回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windowsを修復してみてください。

p.159 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

4 Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.131 「ソフトウェアの再インストールを行う」

警告メッセージ

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に警告メッセージが表示された場合は、下記のとおり、対処してください。対処後もなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティー」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティーを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティーを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
ソフトウェアの強制終了 p.156 ソフトウェアを強制終了します。	● ソフトウェアやWindowsが、キーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなったとき
セーフモードで起動 p.156 必要最低限の状態でWindowsを起動します。	● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止 p.157 不具合のある常駐ソフトを停止します。	● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元 p.157 Windowsを以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動 p.158 Windowsを前回正常起動できた状態に戻します。	● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
BIOSの初期化 p.116 BIOSの設定を初期値に戻します。	● BIOSの設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
Windows回復環境（Windows RE） p.159 Windowsを修復します。	●「システム回復オプション」画面が表示されたとき ● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール p.131 本機を購入時の状態に戻します。	● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき） ● HDDの領域を分割したいとき
システム診断ツール p.162 ハードウェアに不具合があるかどうかを診断します。	● 不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

▶ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。
ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **[Ctrl]＋[Alt]＋[Delete]を押します。**

2 **表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。**
「Windowsタスクマネージャー」が起動します。

3 **「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

強制的に電源を切る

[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1 **電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。**
本機の電源が切れます。

▶セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピューターの電源を切り、20秒程放置してから電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、<u>消えた直後に</u>[F8]を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。**

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、[↑]または[↓]を押して「セーフモード」を選択し、[↵]を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1 **［スタート］をクリックし、検索ボックスに「msconfig」と入力して、 ↵ を押します。**
「システム構成」画面が表示されます。

2 **「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、［OK］をクリックします。**

3 **「システム構成の変更を有効にするには、再起動が必要な場合があります。･･･」というメッセージが表示されたら、［再起動］をクリックします。**
常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

コンピューターの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントが作成された時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。
システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**
「システムの復元」画面が表示されます。

2 **「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。**
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
「システム ファイルと設定の復元」と表示された場合は、内容を確認します。

3 **[次へ]をクリックします。**

4 **復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、［次へ］をクリックします。**

5 **「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、「完了」をクリックします。**

6 **「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、内容を確認し、[はい]をクリックします。**
コンピューターが再起動します。

7 **再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。**
これでシステムの復元は完了です。

▶前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1 **シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。**

2 **「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。**

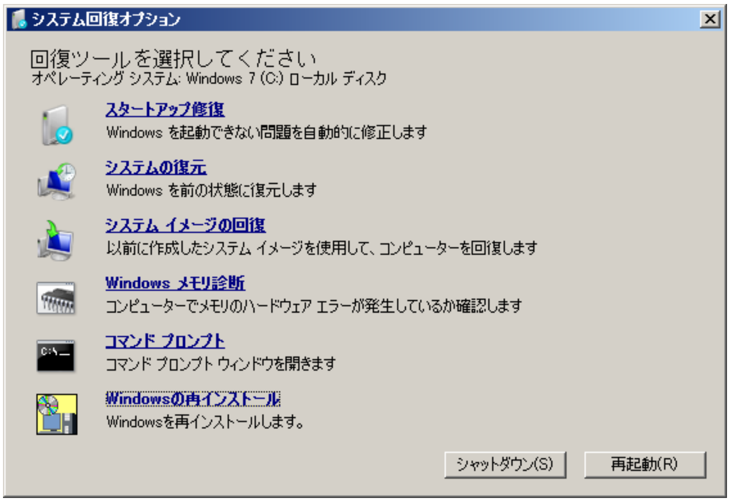
3 **「詳細ブート　オプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、↵ を押します。**

▶Windows回復環境（Windows RE）を使う

本機のHDD 内とWindows 7リカバリーDVDには、「Windows 回復環境（Windows RE）」が設定されています。Windows に不具合が起きると、HDD 内のWindows RE が自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows RE の項目

Windows RE には、次の項目があります。



<イメージ>

● スタートアップ修復

Windows を起動できない問題を自動的に修正します。Windows が起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

● システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行ってみてください。

p.157 「システムの復元」

問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

- システムイメージの回復

  事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

  ※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

  システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

  「PCお役立ちナビ」－［トラブル解決］－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

- Windows メモリ診断

  メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

- コマンドプロンプト

  コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windows に不具合が起きると、HDD 内のWindows RE が自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。
「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows RE の項目を表示させ、対処を行います。

1 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

2 **「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」を入力して [OK] をクリックします。**

3 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

p.159 「Windows RE の項目」

HDD 内のWindows RE を手動で起動する

HDD 内のWindows RE は、手動で起動することもできます。
手動で起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **「EPSON」と表示され、消えた直後に［F8］を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。**

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、［↵］を押します。**

4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

5 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

p.159 「Windows RE の項目」

DVD のWindows RE を使用する

Windows RE は、本機に添付の「Windows 7リカバリー DVD」にも収録されています。HDD 内に設定されているWindows RE を消去してしまった場合などに使用します。DVDメディアに対応した外付けの光ディスクドライブを本機に接続してください。
DVD に収録されているWindows RE の起動方法は、次のとおりです。

1 「Windows 7リカバリー DVD」を外付けの光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。

2 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

3 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

4 オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、[次へ] をクリックします。

5 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

p.159 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

● PCお役立ちナビから起動するシステム診断ツール

PCお役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。

● CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、外付け光ディスクドライブを接続し、「ドライバー CD」からツールを起動してシステム診断を行います。
本機の廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。
p.177 「コンピューターを廃棄するときは」

システム診断を実行する

Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

PCお役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「PCお役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。



<PC お役立ちナビアイコン>

2 PCお役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] − [システム診断ツール起動] をクリックします。

3 システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。

該当項目の診断が開始されます。

4 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「ドライバー CD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源を入れ、ドライバー CDを外付け光ディスクドライブにセットして、本機を再起動します。**

2 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示後、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**
システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。

3 **診断が終了したら、診断結果を確認します。**
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

4 **光ディスクドライブからドライバー CDを取り出し、電源を切ります。**
これでシステム診断は完了です。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。

制限

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

制限

- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

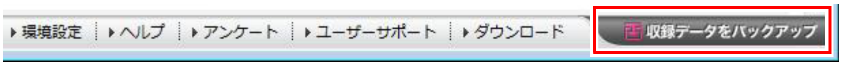
Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶PCお役立ちナビのデータをバックアップする

PCお役立ちナビに収録されている、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）は、Windowsを再インストール（リカバリー）すると、消えてしまいます。Windowsの再インストールをする際は、事前にバックアップを行ってください。

バックアップ方法

光ディスクメディアやUSB記憶装置をセットしてから、PCお役立ちナビ画面右下の［収録データをバックアップ］をクリックし、画面の指示に従ってバックアップを行ってください。



バックアップの詳細手順は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－画面下［ユーザーサポート］ － FAQ 番号：29044

復元方法

バックアップしたデータの入った光ディスクメディアやUSB記憶装置をセットしてから、PCお役立ちナビ画面右下の［バックアップ情報を復元］をクリックし、画面の指示に従って復元を行ってください。



コンテンツやマニュアルデータをダウンロードする

データのバックアップを取らずに再インストールをしてしまった場合は、Webのユーザーサポートページから、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）をダウンロードします。

制限

ダウンロードしたマニュアル類（ユーザーズマニュアル以外）は、PC お役立ちナビには復元できません。マニュアルごとにファイル（PDF）を開いてご覧ください。

ダウンロード

PCお役立ちナビで、コンテンツやマニュアルを表示する際、画面に「コンテンツデータが存在しません」と表示されたら、メッセージ内のリンクからユーザーサポートページにアクセスし、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）をダウンロードします。

復元

ダウンロードしたファイル内に記載されている復元方法に従って、データを復元します。

検索情報の再構築

マニュアルとコンテンツ類を復元したら、検索情報の再構築を行います。画面下［環境設定］内の［検索情報の再構築］をクリックしてください。

▶データのバックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－［トラブル解決］－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「Windows転送ツールを使う」

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

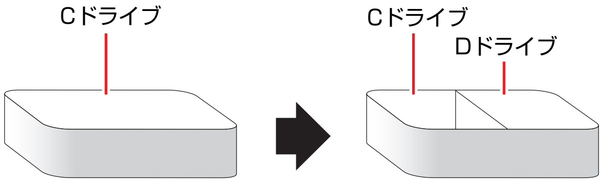
ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割したひとつひとつを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

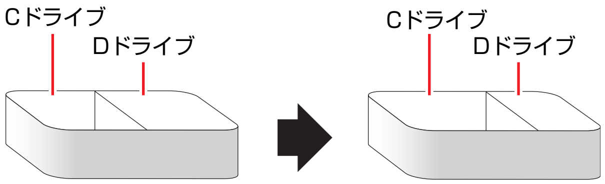
<1台のHDDを分割する>
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>
例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

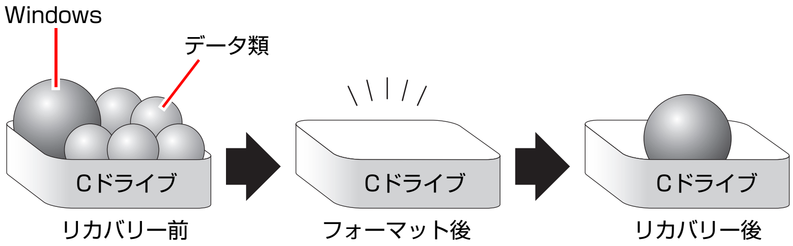
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

● メリット

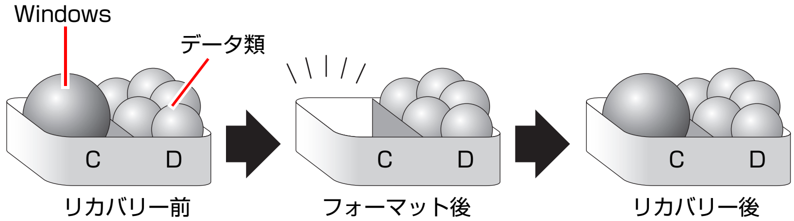
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリー（Windowsの再インストール）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞



リカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

＜HDD領域を分割した場合＞



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。

制限

HDD が分割されている状態でリカバリーを行うときは、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリー（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリー（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。
Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.172「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

制限
ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。
p.166「データのバックアップ」

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。
作業はp.171「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除する
削除したドライブは「未使用の領域」になります。

↓

Cドライブ以外のドライブを削除する
HDDが分割されている場合に、ほかのドライブを削除して「未使用の領域」を増やすことができます。

↓

「未割り当て」に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

↓

Windowsのインストールを完了させる

↓

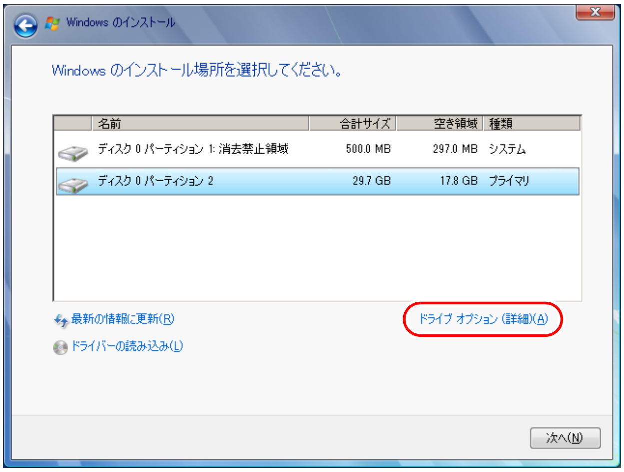
ドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている「未割り当て」をドライブにします。
p.172「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。
p.135 「Windows 7のインストール」の手順11を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

＜p.135 「Windows 7のインストール」の手順11の読み替え＞

1 **「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。**



＜イメージ＞

2 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。**

3 **「パーティションには…」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

削除したパーティション（Cドライブ）が「未割り当て領域」となります。

4 **次のとおり作業を続けます。**

＜Cドライブを分割したい場合＞

(1)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

＜Cドライブの容量を増やしたい場合＞

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。
(2)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5　Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。

Cドライブには、40GB（40000MB）程度を割り当てることをおすすめします。

6　「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、［次へ］をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。インストールには20分程度かかります。

続いて p.135 「Windows 7のインストール」手順12に進みます。

手順12の画面が表示されるまで、キーボードやタッチパッドは操作しないでください。

Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.169 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は p.174「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が「未割り当て」になります。
p.175 「Cドライブ以外のドライブを削除する」

↓

「未割り当て」にパーティションを作成する
p.174 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

↓

フォーマットが自動で行われる

↓

パーティションが新しいドライブとして認識される

※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

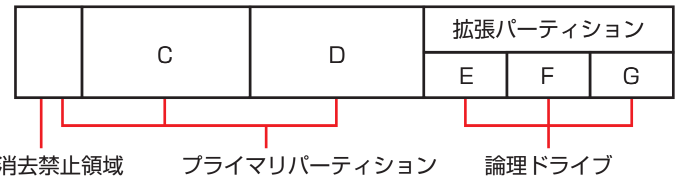
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。「消去禁止領域」もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

＜パーティションの組み合わせの例＞



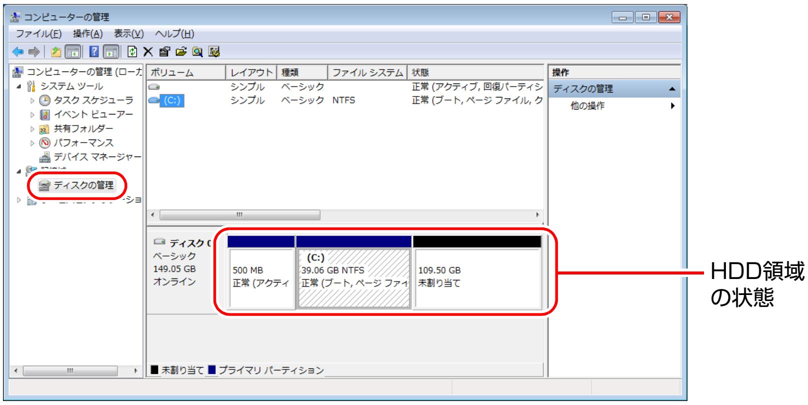
HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「管理ツール」－「コンピューターの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

3 **パーティションを作成したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。**

4 **「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、［次へ］をクリックします。**

6 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して［次へ］をクリックします。**

7 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

8 **「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

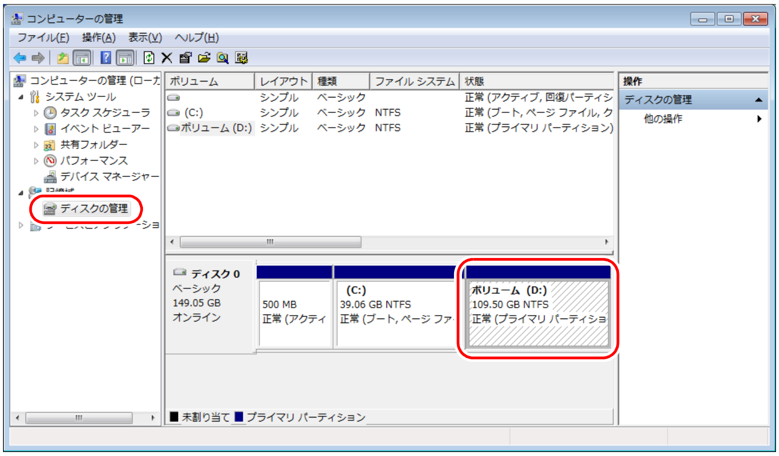
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやUSB記憶装置などにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「管理ツール」－「コンピューターの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**



<イメージ>

3 **削除したいドライブ（パーティション）を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。**

4 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

プライマリパーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.174 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティーで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況によって異なりますが、ACアダプターやバッテリーからの電源供給がまったくない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』(別冊)の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

① データを「ごみ箱」に捨てる

②「削除」操作を行う

③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す

④ ソフトで初期化(フォーマット)する

⑤ 付属のリカバリー CD/DVDを使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス(有償)を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
「ドライバーCD」から起動するシステム診断ツールには、HDD内のデータをすべて消去する機能が備わっています。
消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、ドライバーCDを外付け光ディスクドライブにセットします。

「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[x]をクリックして画面を閉じてください。

2 [スタート] － [▷] － [再起動] をクリックして、本機を再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたあと、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。

4 [Ctrl]＋[C]を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。

5 選択項目画面が表示されたら、[↓]で「HD Erase」を選択して[↵]を押します。

6 選択項目画面が表示されたら、[↓]で「Full Erase」を選択して[↵]を押します。

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して[↵]を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、[Esc]を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去に必要な時間の目安は、HDD容量が160GBの場合で約60分です。

9 「Erase of HD0 :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバーCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番		Na03mini
CPU	プロセッサー	インテル Atom プロセッサー
チップセット		インテル NM10 Express チップセット
BIOS		AMI BIOS
メイン メモリー	メモリー	容量：1GB　PC2-5300（DDR2-667 SDRAM）
	スロット	SODIMMスロット（200ピン）×1
ビデオ 機能	コントローラー	インテル グラフィックス・メディア・アクセラレーター 3150
	メモリー（メイン メモリーと共用）	メインメモリーより 最大251MBを使用
	液晶タイプ、液晶 表示解像度（最大）	10.1型 WSVGAカラー液晶：1024×600　True Color 32ビット（約1,677万色）＊1
	外部ディスプレイ 表示解像度 （最大）＊2	1600×1200 1920×1200（ワイドディスプレイ接続時のみ） True Color 32ビット（約1,677万色）
HDD		シリアルATA 300MB/s対応 2.5型HDD
サウンド機能		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製ALC663コントローラー、 ステレオスピーカー（出力2W×2）、モノラルマイク
ネットワーク機能		100Base-TX/10Base-T対応　Atheros AR8132コントローラー
キーボード		日本語対応86キー
ポインティングデバイス		タッチパッド
インタ フェース	USB	3（右側面×2、左側面×1）：USB2.0
	LAN	1：RJ-45
	サウンド	マイク入力×1、ヘッドホン出力×1
	ディスプレイ	VGA ミニD-SUB 15ピン×1
メモリーカードスロット＊3		1：SDメモリーカード（SDHC対応）、マルチメディアカード（plus対応）、 メモリースティック（PRO対応）に対応
外形寸法（幅×奥行×高さ）		265×180×24.5～28.0mm（突起部を除く）
質量		約1.02kg（バッテリー含む/基本構成時）
電源	ACアダプター＊4 （ADP-40PH）	入力：AC100V～240V±10%（50/60Hz）、1.2A 出力：DC19V、2.1A、40W 質量：約200g（電源コード含む）
	標準バッテリー （BT3102-BW）	容量：2800mAh リチウムイオン 11.25V 動作時間＊5：約4.1時間
消費電力（AC側）		約48W（最大）/ 0.9W（スリープ時）/ 0.6W（電源OFF時）
動作環境		動作温度：10～35℃、動作湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）

＊1 ビデオコントローラーのディザリング機能により実現。
＊2 本機搭載のビデオコントローラー出力解像度（実際の表示は接続するディスプレイの仕様による）。
＊3 SDメモリーカード、メモリースティックの著作権保護機能、またメモリースティックおよびメモリースティックPROの高速転送、セキュリティー機能には非対応。
＊4 標準添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）。本製品は国内専用のため、海外での使用は保証対象外。
＊5 動作時間はJEITA測定方法Ver1.0の測定値（システム構成や使用環境により異なる）。

無線LAN*1

● IEEE802.11b/g

準拠規格	IEEE802.11b/g ：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度（規格値）*2	802.11b ：11Mbps 802.11g ：54Mbps
伝送方式	DS-SS方式（IEEE802.11b） OFDM方式（IEEE802.11g）
伝送距離（理論値）	11Mbps ：40m（IEEE802.11b） 54Mbps ：25m（IEEE802.11g） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時*3
セキュリティー	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
認証	802.1x*4
使用無線チャンネル	IEEE802.11b：1～13ch IEEE802.11g：1～13ch

● IEEE802.11n

準拠規格	IEEE802.11n
データ転送速度（規格値）*2	150Mbps
伝送方式	MIMO方式
セキュリティー	WPA、WPA2対応（AESのみ）
認証	802.1x*4

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：AW-NE785H（AR5B95）
認証番号　：003WWA081036、003GZA081037
*2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。
*4 当社では、Windows Server 2003とのIEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS対応認証サーバー）＋WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索　引

ゆ

り

ろ

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人　日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。
電源の入力波形は、正弦波のみをサポートしています。

パソコン回収について

当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。
PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。
パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。
http://shop.epson.jp/pcrecycle/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。
テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。
また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Live、Internet Explorer、Windows Media、Hotmail、Silverlight、MSN、Outlookは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、インテルAtomは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- MultiMedia Card™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON DIRECT CORPORATION

C77611500 10.05(SO)

shop.epson.jp